FEATHER2004
ユーザーズマニュアル

canopus

ご注意

(1) 本製品の一部または全部を無断で複製することを禁止します。
(2) 本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
(3) 本製品は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの事がございましたら、当社までご連絡ください。
(4) 運用した結果については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
(5) ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。
(6) 本製品付属のソフトウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアッセンブリを禁じます。
(7) カノープス、CANOPUS/カノープスおよびそのロゴは、カノープス株式会社の登録商標です。
(8) Microsoft、Windows、Windows Media、およびInternet Explorerは米国マイクロソフト・コーポレーションの商標または登録商標です。また、その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。
(9) iEPGおよびiEPGロゴは、ソニー株式会社の商標です。
(10) DivXおよびDivX Proロゴは、アメリカ合衆国・その他諸国におけるDivXNetworks社の商標または登録商標です。
(11) AdobeおよびAdobe Premiereは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標です。
(12) MediaArtistは松下電器産業株式会社の登録商標です。

表記について

■ 本書はアプリケーションの操作方法について説明しています。
セットアップ手順は、別冊のセットアップマニュアルをご参照ください。
■ 本書に記載されていない情報が記載される場合がありますので、ディスクに添付のテキストファイルも必ずお読みください。
■ 本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
■ 本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書れています。特に記載の無い操作については、一般的なパソコンの操作と同じように行ってください。
■ 本書ではMicrosoft® Windows® 2000 operating system、Microsoft® Windows®XP、Windows Media VideoをWindows 2000、Windows XP、WMVと表記します。
■ 説明の便宜上、実際の製品とイラスト及び画面写真が異なる場合があります。

⚠ 警告

■ 健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニタに表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的にてんかん・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでにされたことがない方でも、それが起こる体質をもっていることも考えられます。こうした経験をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあたられる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。

■ 著作権について

テレビ放送やビデオなど、他人の作成した映像/音声をキャプチャしたデータは、動画、静止画に関わらず個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。また、個人として楽しむ目的であっても複製が制限されている場合があります。キャプチャしたデータのご利用に対する責任は当社では一切負いかねますのでご注意ください。

ご使用方法や、この内容について不明な点、疑問点などがございましたら、カノープス株式会社テクニカルサポートまでお問い合せください。

カノープス株式会社
〒651-2241
神戸市西区室谷1-2-2
テクニカルサポート
TEL.078-992-6830(10:00～12:00、13:00～17:00)
※土、日、祝日および当社指定休日を除く

FEATHER2004
ユーザーズマニュアル
February 12, 2004

もくじ

第１章　ご使用の前に

第２章　使ってみよう

第３章　FEATHER2004を使いこなそう

第４章　ファイルを変換しよう

第５章　付録

●以下のアイコンを次のような個所に使用しています。

MTV3000だけで使用できる機能を示しています。

MTVシリーズだけで使用できる機能を示しています。

MTUシリーズだけで使用できる機能を示しています。

MTVX2004だけで使用できる機能を示しています。

Digital Video Player（VideoGate 1000 + CRMシリーズリモコン）だけで使用できる機能を示しています。

第１章
ご使用の前に

この章では、FEATHER2004の特徴と操作ツールについて説明します。

1-1 各製品でできること

FEATHER2004を使用する各製品では主に次のような機能を持っています。

MTVシリーズでできること	参照ページ
テレビを見る(チャンネルを設定する)	31(27)
同時に2つの番組を見る(2チャンネル同時視聴)※MTV3000のみ	32
ビデオを見る	42
テレビやビデオ映像を録画する	43
映像フォーマットを変換する	146
録画しながら映像フォーマットを変換する(追っかけ変換)※1	149
録画しながらテレビ番組を見る(裏番組録画)※MTV3000のみ	46
録画した映像を見る	62
大事な場面を見逃さずに見る(タイムシフト)	34
録画しながら、録画した内容を再生する(追っかけ再生)	39
テレビ放送やビデオ映像の気に入った映像を静止画として保存する	76
テレビ放送を録画予約する	49
DVDを再生する	78

※1 ソフトウェアエンコードタイプの製品では、「追っかけ変換」機能をご使用になれません。

MTUシリーズでできること	参照ページ
テレビを見る(チャンネルを設定する)	31(27)
ビデオを見る	42
テレビやビデオ映像を録画する	43
映像フォーマットを変換する	146
録画しながら映像フォーマットを変換する(追っかけ変換)	149
録画した映像を見る	62
大事な場面を見逃さずに見る(タイムシフト)	34
録画しながら録画した内容を再生する(追っかけ再生)	39
テレビ放送やビデオ映像の気に入った映像を静止画として保存する	76
テレビ放送を録画予約する	49
DVDを再生する	78

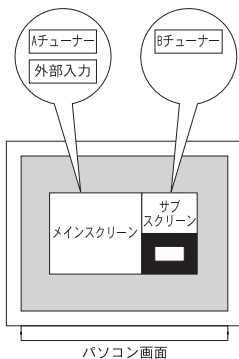
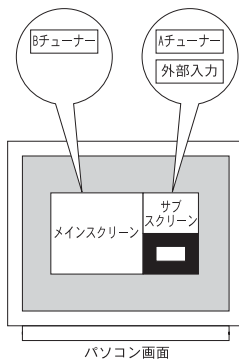
MTVX2004でできること	参照ページ
テレビを見る(チャンネルを設定する)	31(27)
ビデオを見る	42
テレビやビデオ映像を録画する	43
映像フォーマットを変換する※2	146
録画しながら映像フォーマットを変換する(追っかけ変換)※2	149
録画した映像を見る	62
大事な場面を見逃さずに見る(タイムシフト)	34
録画しながら録画した内容を再生する(追っかけ再生)	39
テレビ放送やビデオ映像の気に入った映像を静止画として保存する	76
テレビ放送を録画予約する	49
DVDを再生する	78

※2 X Packシリーズをお持ちの場合のみ

QSTV10/QSTV15/USTV-1でできること	参照ページ
テレビを見る(チャンネルを設定する)	31(27)
ビデオを見る	42
テレビやビデオ映像を録画する	43
映像フォーマットを変換する	146
録画した映像を見る	62
大事な場面を見逃さずに見る(タイムシフト)	34
テレビ放送やビデオ映像の気に入った映像を静止画として保存する	76
テレビ放送を録画予約する	49
DVDを再生する	78

ご使用のパソコンの環境などによっては機能しない場合があります。

■2画面での表示

MTV3000では、VHF(1-12)、UHF(13-62)、CATV(C13-C35)に対応したテレビチューナーを2つ搭載しています。このため、２画面表示が可能となり、１つの画面でテレビ番組を録画しながら、もう１つの画面で他のテレビ番組を見ることができます。また、S/コンポジットのビデオ入力端子も1系統備えているので、ビデオの録画をしながら、画面を切り替えてテレビ番組を見ることもできます。

※録画終了時は自動的に録画待機の状態となります。

２画面表示モードでは､左側に表示される大きな画面をメインスクリーン､右側に表示される小さな画面をサブスクリーンと呼びます。

■メインスクリーン

Aチューナーまたは外部入力端子(Sビデオ､ビデオ)からの画像を録画､表示できます。

※録画中はB チューナーからの画像を表示できます(25 ページ参照)。

■サブスクリーン

Ｂチューナーからの画像を表示します。

※録画中はA チューナーからの画像を表示できます(25 ページ参照)。

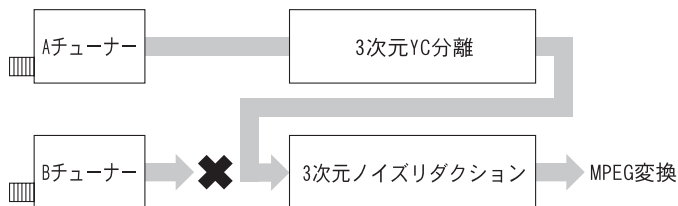
※VideoGate1000に画像を出力させることはできません(DigitalVideoPlayer のリモートモード時)。

メインスクリーンとサブスクリーンで使用できる機能

	メインスクリーン	サブスクリーン
テレビ番組視聴	○	○
外部ビデオ入力視聴	○	×
テレビ番組録画	○	×＊
外部ビデオ入力録画	○	×＊

＊ 録画中はチャンネル交換で録画画面(Aチューナー､外部入力)からの画像を見ることができます。

■W3Dモードによる高画質

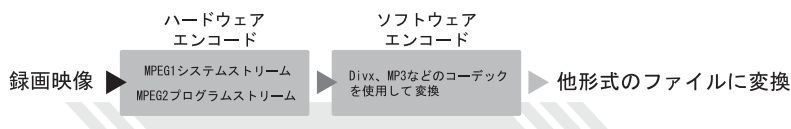
3次元YC分離と3次元ノイズリダクションの同時使用(W3D)が可能になり､更なる高画質を実現しています。

※Bチューナーからの映像にW3Dモードを使用することはできません。

MTV2000PlusでもW3Dモードを使用できます。

■変換できる映像フォーマットについて

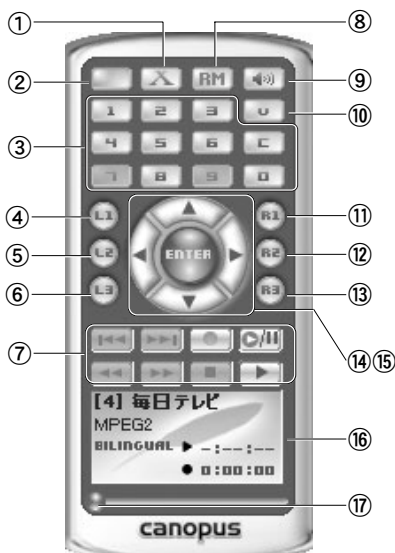
X Packシリーズをご使用の場合は、X-TransCoderを使い、録画した映像を他の映像フォーマットのファイルに変換できます。
変換できる映像フォーマットはご使用になるX Packによって異なります。
詳しくは「DivX形式、WMV形式、SD-Video形式」146ページをご覧ください。

■「追っかけ変換（Background Transcode）」機能

X Packシリーズに付属しているX-TransCoderでは、ハードウェアエンコードしたファイルを自動連続的にソフトウェアエンコードすることができます。変換のタイミングは「録画開始直後」「録画終了後」のいずれでも設定できます。

次の製品は、「追っかけ変換」機能はご使用になれません。

- QSTV10/QSTV15
- USTV-1
- MTV800
- X-TransCoderが付属していない製品（「追っかけ変換」機能をご使用になるには、別途X Packシリーズのいずれかが必要です。）

1-2 コントロールソフト「FEATHER2004」について

「FEATHER2004」は各機能の操作や設定を行うコントロールソフトです。
ここでは、FEATHER2004操作パネルの各部分の名称と機能について説明します。

①[X]ボタン

クリックするタイミングにより、以下のような働きをします。

・録画中
追っかけ変換（149ページ参照）を開始します。

・追っかけ変換中
追っかけ変換中止を確認するメニューを表示します。

・その他の場合
録画を開始した後、追っかけ変換を開始します。

②POWERボタン

FEATHER2004を終了します。

③1-0/[C]ボタン

チャンネルのダイレクト入力、もしくはプリセット入力で指定します。
ケーブルテレビのチャンネルは、頭に「C」をつけて入力します。

④[L1]ボタン

FEATHER2004の設定を行うメニューを表示します。表示画面上でマウスの右クリックを行っても同様のメニューが表示されます。

⑤[L2]ボタン

静止画キャプチャを行います。

⑥[L3]ボタン
チューナー、Sビデオ、ビデオ使用時は画面表示モードを変更することができます。
DVD再生時は各種メニューを表示します。
MTUシリーズではダイレクトプレビューのオン／オフを切り換えます(87ページ参照)。
※USTV-1では使用しません。

⑦録画再生コントロールボタン
録画や再生に関するコントロールを行います(8ページ参照)。

⑧リモートモード切り替えボタン
リモートモードに切り替えます(132ページ参照)。
※VideoGate 1000とCRMシリーズリモコンがない場合は、使用できません。

⑨[ミュート]ボタン
音声のモニタレベルをゼロにします。

⑩[入力切り替え]ボタン
チューナー、ビデオ、Sビデオの切り替えを行います。

⑪[R1]ボタン
MEDIA LIBRARYを表示します(63ページ参照)。

⑫[R2]ボタン
DVD再生を行います(78ページ参照)。

⑬[R3]ボタン
フルスクリーン表示に切り替えます。画面をダブルクリックすることでも同様の操作が行えます。

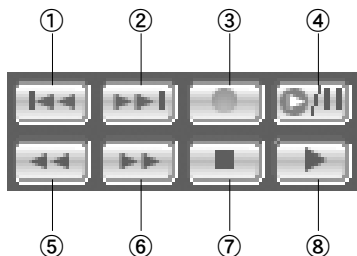
⑭左右ボタン
チャンネルをコントロールします。
ホイルスクロール機能を持ったマウスを使用しているときは、画像の表示されているウィンドウを選択(左シングルクリック)して画面右半分の位置でホイルを回転させると同様の操作を行なうことができます。

⑮上下ボタン
音量をコントロールします。
ホイルスクロール機能を持ったマウスを使用しているときは、画像の表示されているウィンドウを選択(左シングルクリック)して画面左半分の位置でホイルを回転させると同様の操作を行なうことができます。

⑯ステータスバー
再生時間、タイトルなどの情報が表示されます。モードによって表示内容が異なります。

⑰スライダ
ビデオ再生時にスライダを移動すると、任意の位置から再生することができます。

■録画再生コントロールボタンについて

録画再生コントロールボタンは、録画や再生に関するコントロールを行います。通常のビデオデッキとほぼ同じように動作します。

①スキップ(逆)再生ボタン

30秒間戻ります。(スキップ時間を変更できます。132ページ参照)

②スキップ再生ボタン

30秒間進みます。(スキップ時間を変更できます。132ページ参照)

③[録画開始]ボタン

録画します。

④[一時停止]ボタン

一時停止します。

⑤[巻戻し]ボタン

巻戻し再生をします。

⑥[早送り]ボタン

早送り再生をします。

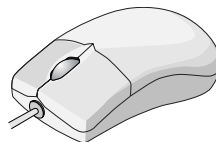
⑦[停止]ボタン

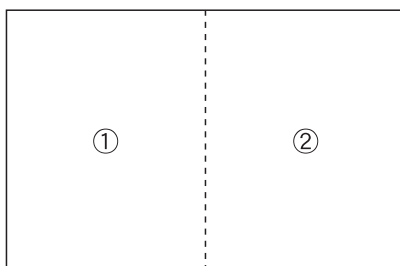
録画・再生を停止します。

⑧[再生]ボタン

再生を開始します。

DVD再生モードの時は、ボタンの機能が変わります。
「DVDを再生する」(78ページ参照)

画面上での音量、チャンネル等の操作

スクリーン上の特定の位置にマウスカーソルを移動することで操作パネルを使わずに、音量、チャンネル、フルスクリーン表示切換等の操作を行うことができます（ご使用のマウスがホイルスクロール機能を備えている必要があります）。

■１画面モード

①音量調節

カーソルが Vol. マークになり、ホイルを回転させることで音量を調整することができます。

②チャンネル変更

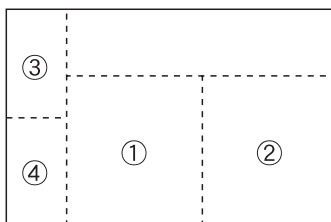
カーソルが CH マークになり、ホイルを回転させることでチャンネルを変更することができます。

③画面表示モード変更

カーソルが マークになり、シングルクリックで１画面表示⇔２画面表示に変更することができます（録画中は２画面表示に変更することはできません）。

④チャンネル交換

カーソルが <> マークになり、シングルクリックで表示に使用するチューナーを切り替えます。

＜MTV3000の場合＞

※シングルクリックでフルスクリーン上にFEATHER2004を表示させます。
※画面ドラッグは画面上どの位置でも行うことができます。
※画面上でダブルクリックするとフルスクリーン表示に切り替わります。

■ 2 画面モード

①画面表示モード変更
カーソルが[アイコン] マークになり、シングルクリックで 2 画面表示⇔1 画面表示に変更することができます（録画中は 1 画面表示に変更することはできません）。

②音量調整
カーソルが Vol. マークになり、ホイルを回転させることで音量を調整することができます。

③チャンネル変更
カーソルが CH マークになり、ホイルを回転させることでチャンネルを変更することができます。

④チャンネルコピー
カーソルが < マークになり、シングルクリックでサブスクリーンの表示チャンネルをメインスクリーンにコピーします。

⑤チャンネル交換
カーソルが <> マークになり、シングルクリックでメインスクリーンとサブスクリーンの入れ替えを行います。

※音量フォーカス（11ページ参照）は②、チャンネルフォーカス（11ページ参照）は③をシングルクリックすることで行います。
※画面ドラッグは画面上どの位置でも行うことができます。
※画面上でダブルクリックするとフルスクリーン表示に切り替わります。
※シングルクリックでフルスクリーン上にFEATHER2004を表示させます。

1-3　２画面コントロールパネルについて

２画面コントロールパネルではチャンネル操作や音量操作等についての設定をすることができます。

①画面表示モード変更ボタン

１画面表示モード、２画面表示モードの切り替えを行います。

②チャンネル交換ボタン

メインスクリーンとサブスクリーンの入れ替えを行います。
１画面表示モードでは録画時のみ使用できます。

③チャンネルコピーボタン

サブスクリーンの表示チャンネルをメインスクリーンにコピーします。
チャンネルコピーは１画面表示モードでは使用できません。

④操作パネル表示/非表示ボタン

FEATHER2004の表示/非表示を行います。

⑤音量フォーカスボタン

音量操作の対象となる画面を選択します。2画面表示モードでは、選択された一方の画面のみ音声が出ます。

⑥チャンネルフォーカスボタン

チャンネル操作の対象となる画面を選択します。

⑦録画開始ボタン

Aチューナー画面に表示されているテレビ番組または外部入力端子からの画像を録画します。

⑧録画停止ボタン

録画を停止します。

チャンネルフォーカス・音量フォーカスを切り替えた際、フォーカスが行われた画面上にOSD（オンスクリーンディスプレイ）で表示されます。

CRMシリーズリモコンでの操作
オプションのリモコンユニットCRMシリーズでも「音声フォーカス」、「チャンネルフォーカス」、「チャンネル交換」、「チャンネルコピー」を行うことができます。

●音声フォーカス→P2ボタンを押す
●チャンネルフォーカス→P3ボタンを押す
●チャンネル交換→P5(SHIFT＋P2)を押す
●チャンネルコピー→P6(SHIFT＋P3)を押す

第２章
使ってみよう

この章では、テレビを見たり、ビデオを録画するなどの基本的な操作について説明します。

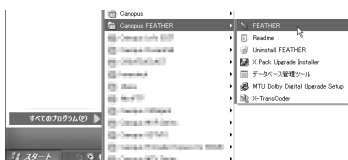
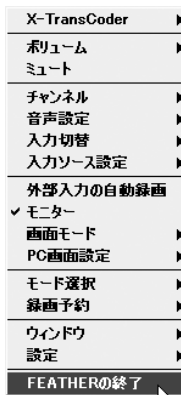
CRMシリーズリモコンをお使いの方へ
起動メニューはMTV3000の場合のみ表示されます。他のボードでは通常、[P1]ボタンでFEATHER2004が起動します。

■著作権保護信号付き映像について
本製品は、著作権保護信号付き映像のキャプチャを行うことはできません。

2-1 FEATHER2004を起動する

FEATHER2004の起動方法は次の２通りがあります。

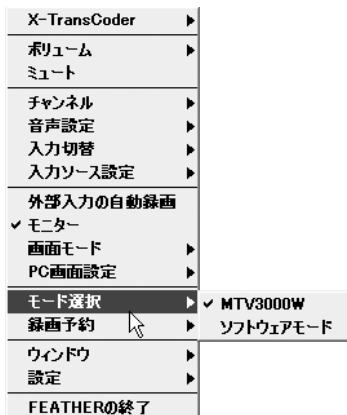
デスクトップ上のショートカットをダブルクリックします。

または、[スタート]メニューから[すべてのプログラム]（Windows2000環境では[プログラム]）へ進み、[Canopus FEATHER]から[FEATHER]を選択します。

FEATHER2004を終了するには、操作パネルの[POWER]ボタンをクリックするか、[L1]ボタンから[FEATHERの終了]を選択します。

■モードを切り替える

ハードウェアエンコードタイプの製品をご使用の場合、ソフトウェアモードでの動作はサポート対象外となります。

1. [L1]ボタンをクリックします。

2. 表示されるメニューから[モード選択]へ進み、使用するモードを選択します。

＜MTV3000Wを使用している場合＞

ソフトウェアエンコードタイプの製品をご使用の場合は、モード選択はできません。

2-2 基本操作をする

具体的な操作に入る前に、音量調整やチャンネル変更など基本的な操作について説明します。

1画面表示モードでの基本操作

１画面表示モードではFEATHER2004や２画面コントロールパネル(※MTV3000のみ)などを使用して以下の基本操作が行えます。

①音量調整
②チャンネル変更
③録画
④画面表示モード変更(※MTV3000のみ)
⑤録画時のチャンネル交換

①音量調整

FEATHER2004または画面上で音量調整を行うことができます。

●FEATHER2004で行う場合

FEATHER2004の上下ボタンで行うことができます。

●画面上で行う場合

ホイルスクロール機能を持ったマウスでは、画面上でカーソルが Vol. マークに変化する部分でホイルを回転させることにより音量を調節することができます。

画面上での操作領域については、9ページをご覧ください。

②チャンネル変更

FEATHER2004 または画面上でチャンネルを変更することができます。

●FEATHER2004 で行う場合

FEATHER2004 の左右ボタンで行うことができます。

●画面上で行う場合

ホイルスクロール機能を持ったマウスでは､画面上でカーソルが CH マークに変化する部分でホイルを回転させることによりチャンネルを変更することができます。画面上での操作領域については､9 ページをご覧ください。

③録画

FEATHER2004 または 2 画面コントロールパネル(※MTV3000 のみ)によって､A チューナーからのテレビ放送や外部ビデオ入力を録画することができます(録画時間の設定等を行う場合は43 ページをご覧ください)。

●FEATHER2004 から行う場合

[録画開始] ボタンをクリックします。

録画を停止する場合は[停止] ボタンをクリックします。

●２画面コントロールパネルから行う場合

録画開始ボタン[REC] をクリックします。

録画を停止する場合は録画停止ボタン[STOP]をクリックします。

④画面表示モード変更

FEATHER2004・2画面コントロールパネル・画面上で、画面表示を1画面表示⇔2画面表示に切り替えることができます。

●FEATHER2004から行う場合

[L3]ボタンで1画面表示⇔2画面表示の切り替えを行います。

●2画面コントロールパネルから行う場合

画面表示モード変更ボタンで1画面表示⇔2画面表示の切り替えを行います。

録画時は、2画面表示モードに切り替えることはできません。

●画面上で行う場合

画面上でカーソルが マークに変化する部分で左クリックすることにより1画面表示⇔2画面表示の切り替えを行います。

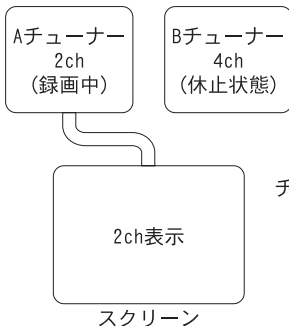
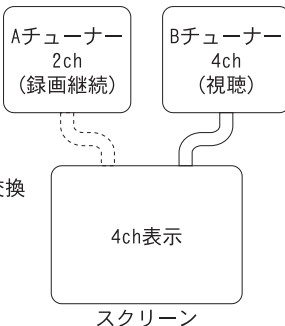
画面上での操作領域については、9ページをご覧ください。

⑤録画中のチャンネル交換 MTV 3000

２画面表示モードでの録画中には、２画面コントロールパネルまたは画面上でチャンネルを交換することができます。
チャンネル交換によりＡチューナーまたは外部入力端子からの画像の録画を継続しながら、Ｂチューナーのテレビ番組を見ることができます（非録画時には使用することができません）。

●２画面コントロールパネルから行う場合
チャンネル交換ボタンを押すことにより、スクリーンが録画中のＡチューナーのテレビ番組からＢチューナーからのテレビ番組に切り替わります。

●画面上で行う場合
画面上でカーソルが <> マークに変化する部分で左クリックすることにより、スクリーンが録画中のＡチューナーのテレビ番組からＢチューナーからのテレビ番組に切り替わります。
画面上での操作領域については、9 ページをご覧ください。

1画面表示モードでのチャンネル交換のしくみ

スクリーンにはB チューナー(4ch)が表示され、Aチューナー(2ch)の録画が継続されます。

※チャンネル交換でB チューナーからのテレビ番組を表示している場合、録画終了時、直前に見ていたB チューナーのチャンネルがA チューナーにコピーされた状態でA チューナーに切り替わります。
※W3D での録画、および追っかけ再生を行っている間はチャンネル交換することはできません。

■画面上での操作領域
スクリーン上の特定部分にカーソルを移動させ各操作を行います。
「画面上での音量、チャンネル等の操作」9 ページ参照

２画面表示モードでの基本操作 MTV 3000

２画面表示モードではFEATHER2004や２画面コントロールパネルなどを使用して以下の基本操作が行えます。

①音量調整
②チャンネル変更
③録画
④画面表示モード変更
⑤チャンネルコピー
⑥チャンネル交換

①音量調整

FEATHER2004または画面上で音量調整を行うことができます。

２画面表示モードでは、まず音量操作の対象となる画面を選択する必要があります（音量フォーカス）。

音量フォーカスについては11ページをご覧ください。

●FEATHER2004で行う場合

FEATHER2004の上下ボタンで行うことができます。

●画面上で行う場合

ホイルスクロール機能を持ったマウスでは、画面上でカーソルが Vol. マークに変化する部分でホイルを回転させることにより音量を調節することができます。

画面上での操作領域については、10ページをご覧ください。

２画面表示モードでは、選択された一方の画面のみ音声が出ます。

②チャンネル変更

FEATHER2004または画面上でチャンネルを変更することができます。

２画面表示モードではチャンネル操作の対象となる画面を選択する必要があります（チャンネルフォーカス）。

チャンネルフォーカスについては11ページをご覧ください。

●FEATHER2004で行う場合

FEATHER2004の左右ボタンで行うことができます。

●画面上で行う場合

ホイルスクロール機能を持ったマウスでは、画面上でカーソルが CH マークに変化する部分でホイルを回転させることによりチャンネルを変更することができます。画面上での操作領域については、10 ページをご覧ください。

③録画

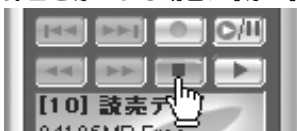
FEATHER2004または2画面コントロールパネルによって、メインスクリーン上の録画待機画面（Aチューナーからのテレビ放送や外部ビデオ入力）を録画することができます。録画時間の設定等を行う場合は43 ページをご覧ください。

※２画面表示モードではメインスクリーン（Aチューナーからのテレビ放送や外部ビデオ入力）に表示されている画像が録画の対象となります、サブスクリーン（Bチューナーからのテレビ放送）に表示されている画像は録画することができません。

※録画開始後はチャンネル交換によりBチューナーからのテレビ放送をメインスクリーンで見ることができます。チャンネル交換については24 ページをご覧ください。

●FEATHER2004から行う場合

[録画開始]ボタンをクリックします。

録画を停止する場合は[停止] ボタンをクリックします。

●２画面コントロールパネルから行う場合

録画開始ボタン[REC]をクリックします。

録画を停止する場合は録画停止ボタン[STOP]をクリックします。

■２画面表示モードは通常よりも多くのデータがPCIを流れるため、ご使用のパソコンによっては録画等の動作に支障をきたす可能性があります。
■録画中はサブスクリーンのチャンネル変更や音量調整等の軽微な操作以外は行わないことをお勧めします。

④画面表示モード変更

FEATHER2004・２画面コントロールパネル・画面上で、画面表示を１画面表示⇔２画面表示に切り替えることができます。

●FEATHER2004から行う場合

[L3]ボタンで１画面表示⇔２画面表示の切り替えを行います。

●２画面コントロールパネルから行う場合

画面表示モード変更ボタンで１画面表示⇔２画面表示の切り替えを行います。

●画面上で行う場合

画面上でカーソルが マークに変化する部分で左クリックすることにより１画面表示⇔２画面表示の切り替えを行います。

画面上での操作領域については、10ページをご覧ください。

録画時は、1画面表示モードに切り替えることはできません。

⑤チャンネルコピー

２画面コントロールパネルまたは画面上で、サブスクリーンの表示チャンネルをメインスクリーンにコピーすることができます。

●２画面コントロールパネルから行う場合

チャンネルコピーボタンを押すことで、サブスクリーンのチャンネルがメインスクリーンにコピーされます。

●画面上で行う場合

画面上でカーソルが [<] マークに変化する部分で左クリックすることにより、サブスクリーンのチャンネルがメインスクリーンにコピーされます。

画面上での操作領域については、10 ページをご覧ください。

デフォルト設定では録画中チャンネルコピーを行うことはできません。録画中にチャンネルコピーを行う場合は、[FEATHER設定]画面([L1]ボタン→[設定]→[詳細設定を開く])の[録画]をクリックし、[録画中はチャンネル切り替えを無効にする]のチェックを外してください。

⑥チャンネル交換

２画面コントロールパネルまたは画面上で、メインスクリーンとサブスクリーンのチャンネルを交換することができます。

●２画面コントロールパネルから行う場合

チャンネル交換ボタンを押すことで、メインスクリーンとサブスクリーンのチャンネルを交換します。

●画面上で行う場合

画面上でカーソルが [<>] マークに変化する部分で左クリックすることで、メインスクリーンとサブスクリーンのチャンネルを交換します。

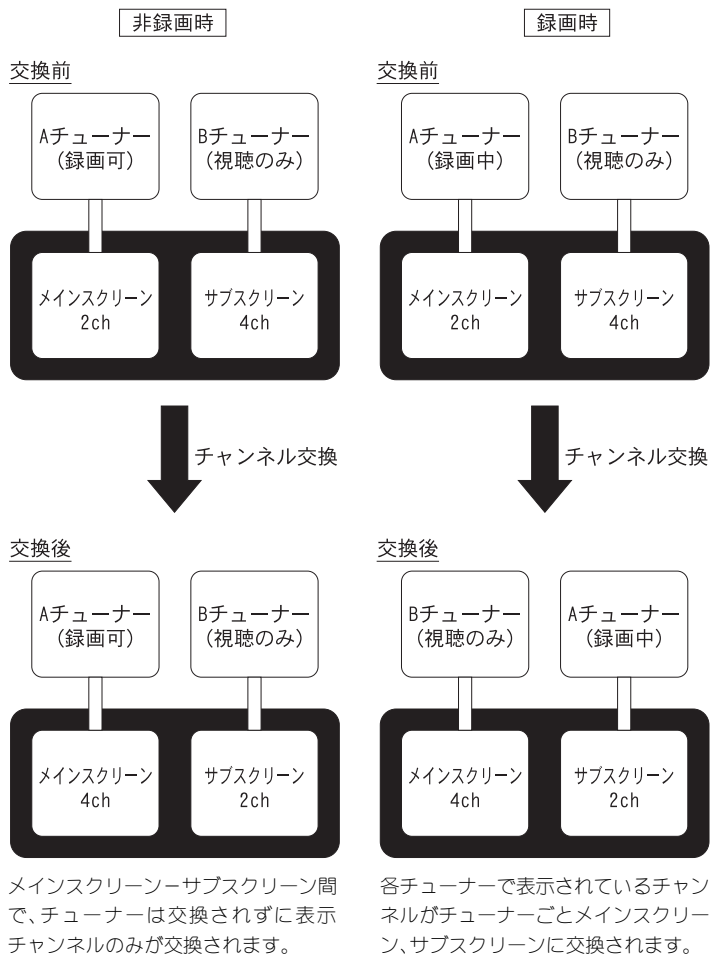
画面上での操作領域については、10 ページをご覧ください。

２画面表示モードでのチャンネル交換のしくみ

非録画時と録画時ではチャンネル交換のしくみが異なります。

非録画時		録画時	
交換前		**交換前**	
Aチューナー（録画可）	Bチューナー（視聴のみ）	Aチューナー（録画中）	Bチューナー（視聴のみ）
メインスクリーン 2ch	サブスクリーン 4ch	メインスクリーン 2ch	サブスクリーン 4ch
↓ チャンネル交換		↓ チャンネル交換	
交換後		**交換後**	
Aチューナー（録画可）	Bチューナー（視聴のみ）	Bチューナー（視聴のみ）	Aチューナー（録画中）
メインスクリーン 4ch	サブスクリーン 2ch	メインスクリーン 4ch	サブスクリーン 2ch

メインスクリーンーサブスクリーン間で、チューナーは交換されずに表示チャンネルのみが交換されます。

各チューナーで表示されているチャンネルがチューナーごとメインスクリーン、サブスクリーンに交換されます。

■外部ビデオ入力が選択された場合はメインスクリーンに反映され、録画時を除きチャンネル交換を行うことはできません。外部ビデオ入力録画終了時の待機画面は、[FEATHER 設定]画面の[録画]で行うことができます(108ページ参照)。

■ファイル再生、追っかけ再生、タイムシフト等のファイル系の操作を行った場合、自動的に1画面表示に切り替わり、チャンネル交換を行うことはできません。

■2画面表示モードではチャンネル交換を行っても、チャンネルフォーカス・音量フォーカスは随伴しません。

■画面上での操作領域

スクリーン上の特定部分にカーソルを移動させ各操作を行います。

「画面上での音量、チャンネル等の操作」9ページ参照

2-3 パソコンでテレビを見る

ここでは基本的な機能を説明します。
ここで説明する機能をマスターすると次章で使用する機能をスムーズに使うことができます。

チャンネルを設定する

FEATHER2004の初回起動時に地域別のプリセットを利用するか､オートスキャン機能を利用して放送があるチャンネルや放送局名などを設定します。

1 [スタート]メニューから[すべてのプログラム（Windows2000環境ではプログラム）]へ進み[Canopus FEATHER]から[FEATHER]を選択します。

→ FEATHER2004が起動します。

2 FEATHER2004の[L1]ボタンをクリックします。

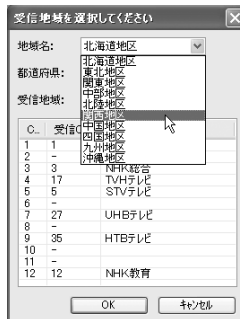
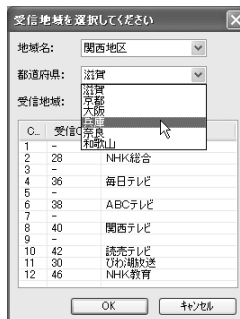
→ メニューが表示されます。

3 メニューから「設定」へ進み、[詳細設定を開く]を選択します。

→ [FEATHER設定]画面が表示されます。

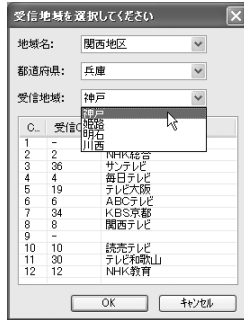
4 [TVチャンネル登録]をクリックします。

5 [地域設定による登録]をクリックします。

6 [地域名]から本製品を使用している地域名を選択します。

7 [都道府県]から都道府県名を選択します。

8

[受信地域]から受信地域を選択します。

→ [OK]をクリックし、受信地域の選択画面を閉じます。

もし、お住まいの地域名が見つからない場合や、受信地域番組リストの内容が、実際に放送されているものと一部異なる場合は、できるだけ近い内容の地域を選択してください。リストの内容は、後から修正できます。

9

放送局名を確認、および設定してください。

※ 受信チャンネル番号は､放送局からの電波の周波数に直接対応したチャンネル番号のことで､新聞や雑誌のTV番組表に載っている番号です｡1～12(VHF)と､13～62(UHF)があります。

受信したいチャンネル番号の欄に、放送局名が正しく記入されていることと、左端に登録マーク(✔)が付いていることを確認してください。もし、その欄に放送局名や登録マーク(✔)がない場合は、その欄をクリックしてみてください。放送が受信できていれば、オーバーレイウィンドウにそのチャンネルの映像が表示されます。正常に受信できていることが確認できた場合は、登録と書かれたチェックボックスをクリックして登録マーク(✔)を表示させ、放送局名欄をクリックして放送局名を入力してください。

10

プリセットを確認および設定してください。

→ チャンネルプロパティ一覧のボタンに、それぞれ任意の受信チャンネルを割り当てることで選局が簡単に行えます。

11

[数字ボタンの動作]の[ボタンに登録されたチャンネル]を選択します。[OK]を押すと設定を完了し、画面が閉じます。

[ボタン登録されたチャンネル]とは、FEATHER2004の1～0のボタンに任意に割り当てられたチャンネルを選択することをいいます。
[チャンネル数字入力]とは、放送局が使用しているチャンネルを選択することをいいます。
ケーブルテレビは、ケーブルテレビ局がチャンネルを割り当てています。

[自動受信による登録]をクリックすると、全てのチャンネルを順にスキャンし、放送電波があるチャンネルを自動的に見つけることもできます。受信できたチャンネルの欄には、登録マーク(✔)が付きます。

テレビ番組を表示する

FEATHER2004を起動するとテレビを見ることができます。

1 FEATHER2004を起動します。

チャンネル設定については、「チャンネルを設定する」27ページを参照してください。

2 FEATHER2004の[入力切り替え]ボタンを何回かクリックし、チューナーに切り替えます。

3 左右ボタンを使用してお好みのチャンネルに合わせてください。オーバーレイウィンドウに選択した受信チャンネルの映像が表示されます。

→ マウスのホイールを回転させたり、FEATHER2004やキーボードのテンキー(0～9の数字キー)で直接チャンネル番号を入力することでチャンネルを変更することもできます。

2つのチャンネルを同時に見る MTV3000

MTV3000では2画面表示モードを使用して、2つのテレビ放送を同時に見ることができます(2画面表示モードでは画面の位置調整はできません)。

1. FEATHER2004を起動します。

   参照 チャンネル設定については、「チャンネルを設定する」27ページを参照してください。

2. FEATHER2004の[入力切り替え]ボタンを何回かクリックし、チューナーに切り替えます。

3. [L3]ボタンを押し、1画面表示モードから2画面表示モードに切り替えます(2画面コントロールパネルまたは画面上でも表示モードの切り替えを行うことができます。18ページ参照)。

4. チャンネルを変更する場合は、チャンネルフォーカスボタンをクリックし、チャンネル操作の対象となる画面を選択します。

次に、FEATHER2004の左右ボタンを使用してお好みのチャンネルに合わせてください(画面上でもチャンネルを変更することができます。21ページ参照)。

→ マウスのホイールを回転させたり、FEATHER2004やキーボードのテンキー(0〜9の数字キー)で直接チャンネル番号を入力することでチャンネルを変更することもできます。

２チャンネル同時視聴では、音声は選択された一方の画面のみ出ます（音声フォーカス）。
音声フォーカスについては11ページをご覧ください。

大事な場面を見逃さずに見る(タイムシフト)

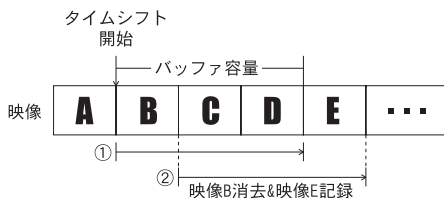
テレビを視聴していて、ちょっと席を離れる場合などは、戻ってきたときに続きの部分から見ることができる、タイムシフト機能を使用すると便利です。ここでは、このタイムシフト機能について説明します。

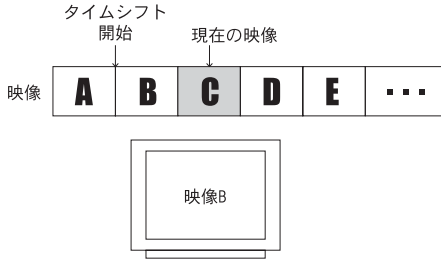
タイムシフトのしくみ

この機能には、タイムシフト中のみ映像の再生を行うことができる標準モードとタイムシフト終了後もMPEGファイルとして、映像を保存できる録画モードがあります。

標準モード

一定時間分のバッファで映像を記録していき、バッファ容量が限度にきたところで古い映像から消去を行い、新しい映像の記録を続けます。
バッファ容量内で記録されている映像は、その範囲内で自由に再生・巻戻し・早送り等することができます。バッファ時間は設定します。

※標準モードでは、タイムシフトを終了すると記録した全ての映像が消去されます。

①で映像Bから映像Dまでのバッファ容量でタイムシフトを開始した場合、バッファ容量が映像Dの終りに達したところで映像Bが消去され、②その分のバッファで映像Eの記録を行います。

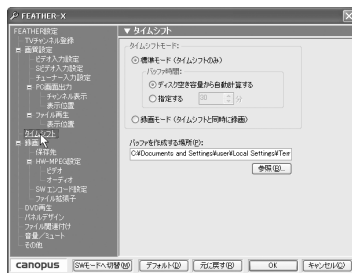
タイムシフトされた映像がMPEGファイルとしてハードディスクに保存されます。タイムシフト終了後も映像を保存しておきたい場合に使用します。

通常の録画モードではスクリーン上に現在の映像が表示されますが、タイムシフトの録画モードでは、スクリーン上に表示される映像はハードディスクに既に記録された映像の再生となります。また、録画開始時に記録するファイル名を指定するのではなく、あらかじめ設定されたバッファ用のファイルに記録されます。

ここで説明している手順で、タイムシフト機能がうまく使用できない場合、録画データの設定を変更する必要があります。

1

FEATHER2004を起動し、[L1]ボタンから[設定]へ進み、[詳細設定を開く]を選択します。

2

[FEATHER設定]画面の左メニューから[タイムシフト]を選択します。

3

タイムシフトモードを[標準モード]または[録画モード]から選択します。標準モードを選択した場合は、バッファ時間も設定します。

※ デフォルトではディスクの空き容量から自動計算されます。

標準モードと録画モードについては、「タイムシフトのしくみ」34ページを参照してください。

4

タイムシフト機能を使用したいテレビ映像をオーバーレイウィンドウに表示します。

テレビ映像を表示する場合は、「テレビ番組を表示する」31ページを参照してください。

ビデオ映像を表示する場合は、「ビデオの映像を見る」42ページを参照してください。

5

[一時停止]ボタンをクリックします。

→ 表示中の映像が停止し、タイムシフトを開始します。

再開するときは、再度[一時停止]ボタンをクリックします。

→ タイムシフト機能を使用した映像の表示を再開します。タイムシフト中は、何度でも一時停止、再生を繰り返すことができます。

標準モードの場合には、一時停止していた時間がバッファ時間を超えていなければ、一時停止させた時点の続きから再生されます。バッファ時間を超えていた場合は、現在よりバッファ時間分だけ過去の場面から始まります。
録画モードの場合には、一時停止させた時点の続きから再生されます。ドライブの空き容量がなくなるまで録画を続けることができます。

タイムシフト中に、記録された映像内で一定時間前または先へスキップして再生することができます（スキップ再生）。

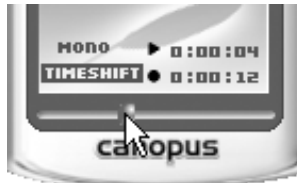
スキップ再生ボタン

スキップ時間の設定を行うには、「その他」132ページを参照してください。

7

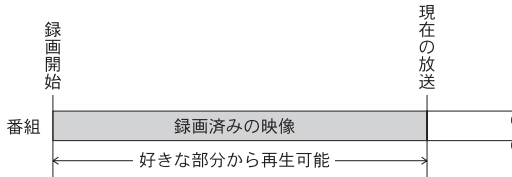
[停止]ボタンをクリックします。

→ タイムシフトを終了し、通常の状態に戻ります。

スライダを操作して、見たい場面に巻戻し / 早送りすることができます。右に行くほど、現在位置に近づきます。

録画中にすでに録画した映像を見る（追っかけ再生）

テレビ放送または外部ビデオ機器を録画している時に、[再生] ボタンをクリックすると、録画を続けながら、既に録画された部分を最初から見ることができます。ここでは、この追っかけ再生機能について説明します。

追っかけ再生ってなに？

これまでの録画では、録画中にその内容を見ることはできませんでした。追っかけ再生では、ムダな待ち時間を省き、録画中に見たいと思う場面を見たいと思ったその時にお楽しみいただけます。

ソフトウェアモードでは機能しません。

1 テレビまたはビデオを録画している状態にします。

手順の詳細については、「テレビやビデオの映像を録画する」43ページを参照してください。

2 はじめから再生するには、[再生]ボタンをクリックします。

または、再生したいところで[一時停止]ボタンをクリックします。

→ 画面が静止します。

3 **手順2で[一時停止]ボタンを押した場合、再度[一時停止]ボタンをクリックします。**

→ 停止したところから再生を開始します。

※ 追っかけ機能使用中は、何度でも一時停止、再生を繰り返すことができます。

※ タイムシフトと同様、スライダで追っかけ再生の時間を変更することができます。

追っかけ再生中に、記録された映像内で一定時間前または先へスキップして再生することができます（スキップ再生）。

スキップ再生ボタン

スキップ時間の設定を行うには、「その他」132ページを参照してください。

追っかけ再生は、タイムシフトと同様に、通常の録画や再生よりもさらに高いCPUやディスクの速度を必要とします。

[停止]ボタンをクリックします。

→ 追っかけ再生を終了し、通常の状態に戻ります。

※ [停止]ボタンを二度クリックすると録画を停止します。

スライダを操作して、見たい場面に巻戻し / 早送りすることができます。右に行くほど、現在位置に近づきます。

ビデオの映像を見る

ビデオ入力端子に接続したビデオ機器の映像を見ることができます。

1. FEATHER2004を起動します。

2. FEATHER2004の[入力切り替え]ボタンを何回かクリックし、ビデオまたはSビデオに切り替えます。

→ オーバーレイウィンドウにビデオの映像が表示されます。

ビデオ映像をより見やすくする機能として、ビデオ信号を調整したり、オーバーレイウィンドウに表示される画像を調整したりする機能があります。

ビデオ信号の調整に使用するウィンドウについては、「[ビデオ入力設定]」94ページ、「[Sビデオ入力設定]」96ページを参照してください。

オーバーレイウィンドウの調整に使用するウィンドウについては、「[PC画面出力]」100ページを参照してください。

2-4 録画する

テレビやビデオの映像を録画する

テレビ放送やビデオ入力端子に接続したビデオ機器の映像を録画することができます。

ノイズなど映像の状態によっては録画できないものがあります。

1 録画したいテレビまたはビデオ映像をオーバーレイウィンドウに表示します。

参照 テレビ映像を表示する場合は、「テレビ番組を表示する」31ページを参照してください。

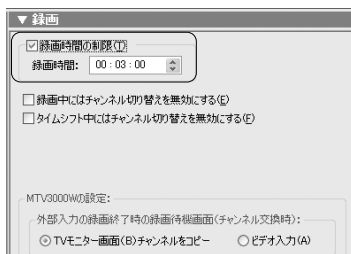
参照 ビデオ映像を表示する場合は、「ビデオの映像を見る」42ページを参照してください。

2 [L1]ボタンをクリックし、[設定]から[詳細設定を開く]を選択します。

→ [FEATHER設定]画面が表示されます。

3

左メニューから[録画]を選択します。[録画時間の制限]をチェックし、録画時間を設定します。設定後、[OK]をクリックします。

※ 録画時間に制限を設定しない場合は、チェックを付けないでください(チェックを外すと[録画時間]はグレーアウトし、設定できなくなります)。

録音レベルを100%以外に設定した場合、すべての音声に対して調整処理を行うため、キャプチャに失敗する場合があります。
通常は100%の設定でお使いください。
なお、録音レベルはご使用の製品によっては設定できません。

4

ハードウェアエンコードの場合はMPEGパラメータを設定し、[OK]をクリックします。

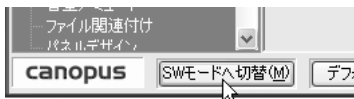
MPEGのパラメータ設定には、専門的な知識を必要とする設定も複数あります。最初は、初期設定のままで録画をし、問題が出た場合に、その部分を変更していくようにしてください。
設定内容は記憶されますので、同じパラメータで録画する場合には、次回から設定する必要はありません。

MPEGパラメータの設定については、「[HW-MPEG設定]」109、111、116ページを参照してください。

ソフトウェアエンコードの場合はSWエンコードの設定し、[OK]をクリックします。

ソフトウェアエンコーダ選択時、[HW-MPEG設定]のビデオ形式をMPEGに設定してもMPEG形式では録画されません。ソフトウェアモードでビデオ形式をMPEGに設定してください。

SWエンコードの設定については、「[SWエンコード設定]」120ページを参照してください。

ハードウェアエンコードタイプの製品をご使用の場合は、ソフトウェアエンコードに切り替えることができます。
[SWモードへ切替]をクリックするとモードが切り替わり、SWエンコードの設定が可能になります。ただし、SWモードに切り替えた場合の動作はサポート対象外です。

5

[録画開始]ボタンをクリックします。

→録画を開始します。設定した時間が経過すると、録画を自動的に終了します。録画を中止したい場合は[停止]ボタンをクリックしてください。

ドライブの空き容量がなくなるまで録画を続けることができます。

裏番組を録画する

MTV3000ではAチューナーからのテレビ番組や外部ビデオ入力端子からの映像を録画しながら、Bチューナーからのテレビ番組を見ることができます。

まず録画したい映像を表示させます。

■ 1画面表示モードの場合

録画したいテレビまたはビデオ映像をスクリーンに表示します。

テレビ映像を表示する場合は、「テレビ番組を表示する」31ページを参照してください。

ビデオ映像を表示する場合は、「ビデオの映像を見る」42ページを参照してください。

■ 2画面表示モードの場合

録画したいテレビまたはビデオ映像をメインスクリーンに表示します。

２画面表示モードでの操作は、「２画面表示モードでの基本操作」21ページを参照してください。

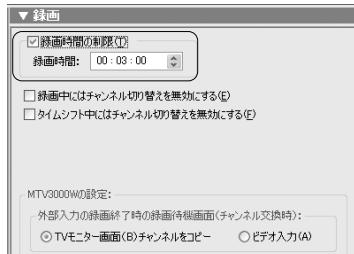
ビデオ映像を選択した場合はメインスクリーンに表示されます。
ビデオ映像を表示する場合は、「ビデオの映像を見る」42ページを参照してください。

2

[L1]ボタンをクリックし、[設定]から[詳細設定を開く]を選択します。

→[FEATHER設定]画面が表示されます。

3 左メニューから[録画]を選択します。[録画時間の制限]をチェックし、録画時間を設定します。設定後、[OK]をクリックします。

※ 録画時間に制限を設定しない場合は、チェックを付けないでください(チェックを外すと[録画時間]はグレーアウトし、設定できなくなります)。

録音レベルを100%以外に設定した場合、すべての音声に対して調整処理を行うため、キャプチャに失敗する場合があります。
通常は100%の設定でお使いください。
なお、録音レベルは、ご使用の製品によっては設定できません。

4 MPEGパラメータを設定します。

MPEGのパラメータ設定には、専門的な知識を必要とする設定も複数あります。最初は、初期設定のままで録画をし、問題が出た場合に、その部分を変更していくようにしてください。
設定内容は記憶されますので、同じパラメータで録画する場合には、次回から設定する必要はありません。

MPEGパラメータの設定については、「[HW-MPEG設定]」109、111、116ページを参照してください。

5 [録画開始]ボタンをクリックします。

→ 録画を開始します。設定した時間が経過すると、録画を自動的に終了します。録画を中止したい場合は[停止]ボタンをクリックしてください。

ドライブの空き容量がなくなるまで録画を続けることができます。

6 Bチューナーからの番組を表示させます。

■１画面表示モードの場合

２画面コントロールパネルのチャンネル交換ボタンを押します。

→Bチューナーからの番組が表示されます。

チャンネル交換ボタン

■２画面表示モードの場合

サブスクリーンにBチューナーからの番組が表示されています。Bチューナーからの番組をメインスクリーンで視聴したい場合には、２画面コントロールパネルのチャンネル交換ボタンを押します。

→Bチューナーからの番組がメインスクリーンに表示されます。

チャンネル交換ボタン

２画面表示モードでのチャンネル変更や音量調整については21ページをご覧ください。

2-5 録画予約する

テレビ番組を録画予約する

ここではFEATHER2004のテレビ番組録画予約機能について説明します。

■FEATHER2004のスケジュール機能を利用して録画予約する

FEATHER2004のスケジュール機能を利用したテレビ番組録画予約について説明します。スケジュール機能を利用した録画予約を行う場合は、録画予約が開始される時間に、お使いのパソコンのタスクスケジューラが復帰できる状態である必要があります。また、タスクスケジューラの復帰には予約設定時にWindowsにログインしたアカウント（パスワード）が必要です。

録画予約を行う場合は、前もってパソコンの内蔵時計を正しい日付、時刻に設定しておいてください。
日付、時刻の設定は、[スタート] メニュー→[コントロールパネル]→[日付、時刻、地域と言語のオプション]→[日付と時刻] をクリックすると表示される、[日付と時刻のプロパティ] 画面で行ってください。調整後は、一度タスクスケジューラを停止し、再開することをお勧めします。
録画予約で設定できるのは、プログラムストリーム、システムストリームです（166 ページ参照）。また、予約時は、パソコンのタスクスケジューラの機能を利用しています。

1

[L1]ボタンから[録画予約]へ進み、[新規予約]を選択します。

→[予約日時]画面が表示されます。

2

スケジュール、開始日、開始時刻、終了時刻を設定し、[次へ]をクリックします。

→[録画設定]画面が表示されます。

※ 終了時刻と録画時間は連動していますので、どちらかを変更するともう一方も自動的に変更されます。

3

番組名、ビデオソース、チャンネル、音声多重、録画開始前の待機時間、録画マージンについて設定し、[次へ]をクリックします。

→[録画形式]画面が表示されます。

4

動作、録画形式、ファイル名について設定し、[次へ]をクリックします。

※ W3Dについては4ページをご覧ください。

●MPEGマニュアル設定

[録画形式]の[詳細設定]をクリックすると[MPEGマニュアル設定]画面が表示されます。表示される画面は、選択した録画形式やご使用の製品によって異なります。

＜MTV3000で[MPEG(M)]を選択した場合＞

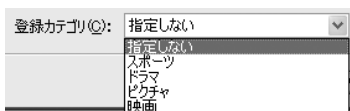
項目の詳細については「5-1　各設定項目をもっと詳しく」166ページを参照してください。

●ファイル名の詳細設定

[ファイル名]の[詳細設定]をクリックすると[ファイル名の詳細設定]画面が表示されます。

・**連番**
　同名ファイルが存在する場合、ファイル名に連番をつけます。

・**日時**
　必ず日時をファイル名につけます。

※「登録カテゴリ」ではMEDIA LIBRARYに登録するカテゴリを選択できます。

右の画面が表示されたときは、Windowsにログオンした時と同じアカウント(パスワード)を必ず設定してください。

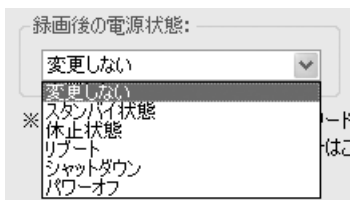
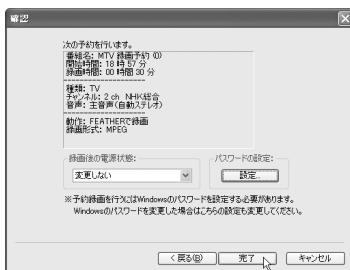
※この設定を間違った場合やパスワードが未入力の場合は、正しく録画できないことがあります。

※[リセット]ボタンをクリックすると入力した内容がリセットされます。

5 [完了]をクリックします。

→ 設定内容に従って、録画予約が行われます（[予約一覧]画面に登録されます）。

※ Windowsのパスワードを変更した場合は、[パスワード設定]で設定の変更を行ってください。設定の変更が行われていない場合は、録画に失敗します。

※ 録画後の電源状態を設定する場合はプルダウンメニューから選択してください。

■番組表をマウスで操作する

iEPG番組表を利用したテレビ番組録画予約について説明します。この機能を利用するためには、インターネットに接続できる環境と、FEATHER2004設定の番組情報をあらかじめ設定しておく必要があります。録画予約を行う場合は、録画予約が開始される時間に、お使いのパソコンのタスクスケジューラが復帰できる状態である必要があります。また、タスクスケジューラの復帰には予約設定時にWindowsにログインしたアカウント（パスワード）が必要です。
ここでは、番組情報「テレビ王国」を例に手順を説明します。

はじめて録画予約の設定を行う時は、59ページ記載の「iEPGで予約を追加できるように拡張子を関連付ける」にチェックを入れます。

1 [L1]ボタンから[録画予約]へ進み[番組表（マウス操作）]を選択します。

→ インターネットへ接続し、テレビ王国のホームページが表示されます。地域などお使いの環境に合わせて番組表を選択してください。

右の画面が表示されたときは、Windowsにログオンした時と同じアカウント(パスワード)を必ず設定してください。

※この設定を間違った場合やパスワードが未入力の場合は、正しく録画できないことがあります。

※[リセット]ボタンをクリックすると入力した内容がリセットされます。

2

予約を行いたい番組名の下にある[予約]をクリックします。

3

番組の情報が表示されるので[ENTER]をクリックします。

4

録画予約を終了するときは、[R3]をクリックします。

■番組表をリモコンで操作する

当社製CRMシリーズリモコンをお持ちの方は、iEPG番組表をリモコンで操作しテレビ番組の録画予約をすることができます。録画形式などの設定は、デフォルト(初期設定)で録画されます。

・はじめて録画予約の設定を行うときは、59ページ記載の「iEPGで予約を追加できるように拡張子を関連付ける」にチェックを入れます。
・キーボードのカーソルキーとEnterキーでも操作できます(マウスでは操作できません)。

CRMシリーズリモコンの使い方は、CRMシリーズリモコンに付属の取扱説明書を参照してください。

リモコンの[L1]ボタンを押し、[録画予約]から[番組表(リモコン操作)]を選びます。

→インターネットへ接続し、テレビ王国のホームページが表示されます。地域などお使いの環境に合わせて番組表を選択してください。

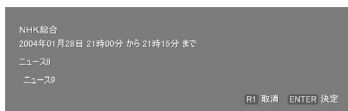
右の画面が表示されたときは、Windowsにログオンした時と同じアカウント(パスワード)を必ず設定してください。
※この設定を間違った場合やパスワードが未入力の場合は、正しく録画できないことがあります。
※[リセット]ボタンをクリックすると入力した内容がリセットされます。

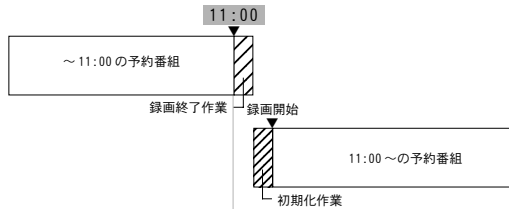
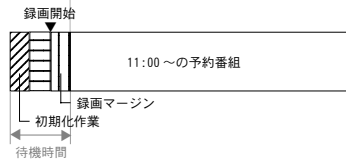
3

録画したい番組を選択し、[ENTER]ボタンを押します。

4

番組の情報が表示されるのでリモコンの[ENTER]ボタンを押します。

5

録画予約を終了するときは、リモコンの[R3]ボタンを押します。

たとえば、同じ日の10:00～11:00、11:00～12:00といった2つの番組を予約した場合、警告メッセージが表示されます。これは、[待機時間]で設定された時間を予約と予約の間にとれないためです。
また、この場合11:00～の予約分の頭が少し切れた状態になります。これは11:00までの予約分が11:00に録画終了処理を行い、その後11:00～の予約分が初期化後に録画を開始するためです。
これを防止するためには、iEPG予約後に予約開始・終了時間などの調整を行っていただく必要があります。

■予約内容を確認・変更する

[L1]ボタンから[録画予約]→[予約一覧表示]を選択すると、[予約一覧]画面が表示されます。ここではテレビ番組の録画、視聴予約の設定内容を確認、変更することができます。

[予約一覧]画面

①[追加]ボタン

新しい、録画・視聴予約データを追加します。クリックすると、設定用画面が順に（設定内容によって表示される画面の種類、数は異なります）表示されますので、設定を行います。全ての設定が終了したら、[完了]をクリックします（49～51ページ参照）。

②[削除]ボタン

不要となった録画・視聴予約データを削除します。削除したい録画・視聴予約データを左クリックで選択し、[削除]をクリックすると、データが削除されます。

③[編集]ボタン

作成した予約データの詳細内容を確認・変更することができます。確認・変更したい録画・視聴予約データを左クリックで選択し、[編集]をクリックすると、データ内容が表示されます。データ内容は、複数のタブに分けて表示されます。

④[設定]ボタン

次ページ参照。

⑤[インターネット番組表]ボタン

[設定]ボタンの番組情報タブで入力したホームページを表示します。

④[設定]ボタン

[予約録画]タブ

録画時の起動および終了時のオプション設定を行うことができます。

- 初期化マージン

  タスク起動時から初期化までのマージンを設定します。ご使用の環境で初期化に失敗する場合、設定をすることをお勧めします。

- リトライ回数

  録画が失敗した場合のリトライ回数を0～10回まで選択できます。
  リトライした場合は、ファイルが分割されます。

- オーバーレイ表示マージン

  オーバーレイ表示開始までのマージンを設定します。お使いの環境で、オーバーレイの表示に失敗する場合、設定することをお勧めします。

- 電源状態変更

  録画予約後の電源状態変更までの待機時間を10～60秒まで選択できます。

[番組情報]タブ

iEPGを使った番組予約機能に関する設定を行うタブです。iEPG機能を使用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。設定項目は以下のとおりです。

- インターネット番組情報のURL

  iEPG番組予約に使用する番組表があるURLを入力します。プルダウンリストには、デフォルトの設定が登録されていますので、リストから選択することもできます。[ブラウザで表示]をクリックすると、指定したURLを表示します。

- iEPGで予約を追加できるように拡張子を関連付ける

  チェックすると、スケジュールに関連付けが行われ、iEPG機能が使用できるようになります。iEPG機能を使用する場合は、必ずチェックを付けてください。

デフォルトの設定に含まれていない番組表を入力した場合、番組表から提供される定義ファイルの拡張子を入力するウィンドウが表示されます。

■CiRAgentを利用して外出先から録画予約する

遠方へ外出したときなど、iモードやパソコンからインターネットを利用し、テレビ録画の予約をすることができます。ここでは、テレビ番組情報サイト「テレビ王国」の手順を説明します。

CiRAgentの設定については、別冊のセットアップマニュアルを参照してください。

録画予約を行う場合は、必ずパソコンとテレビチューナーユニットの電源を入れておいてください。スリープモード、またはテレビチューナーユニットの電源が切れている場合は、録画できません。

1 iモードなどの端末から「テレビ王国」へ接続します。

→「テレビ王国」のURLは「http://www.so-net.ne.jp/tv/」です。iモードをご使用になる場合のURLは「http://imode.so-net.ne.jp/tv/」です。

※URLは予告無く変更される場合があります。

2 番組表から録画したい番組を選択します。

→予約を確認するメッセージが表示されます。

3 「はい」を選択します。

→「テレビ王国」のサーバーに登録されますので、予約はこれで完了です。

予約方法の詳しい内容は「テレビ王国」を参照してください。

テレビ王国のパスワードを変更した場合、必ずCanopus CiRAgent設定で再設定してください。設定が異なる場合、予約情報が反映されません。

サーバーの予約設定待ち一覧に、録画時間が過ぎている予約が表示されている場合、それを削除してから新規の予約を行ってください。

リモート録画予約のしくみ

ｉモードやインターネットカフェなどの外出先からインターネットを利用しご自宅のパソコンにテレビ録画することをリモート録画予約と呼んでいます。

まず、インターネット上で録画予約した情報がテレビ王国のサーバーへ登録されます。

パソコンにインストールされているCiRAgentが、接続時間になるとインターネットに接続し、テレビ王国のサーバーに登録されている録画予約情報をダウンロードします。その後、予約完了のメールが届きます。録画予約に失敗した場合は、その通知メールが届きます。

予約した時間になると、ご自宅のパソコンが録画を開始します。

CiRAgentは、設定された接続時間のみサーバへ接続するため、録画予約やキャンセルが実行されない場合があります。

2-6 録画した映像を見る

映像ファイルを再生する

録画予約したファイルなどの再生の手順について説明します。

1

[R1]ボタンをクリックします。

→[MEDIA LIBRARY]画面が表示されます。

2

MEDIA LIBRARYから再生するファイルを選択し、[再生]ボタンをクリックします。

→再生が開始されます。

※再生したいファイル上でダブルクリックすることでも再生が開始されます。

※ビデオ再生中にスライダを移動すると任意の位置から再生することができます。

3

再生を終了するときは[停止]ボタンをクリックします。

→ファイルの再生を停止します。

ASFファイル(SD-Video形式)の再生中に、再生が停止する場合があります。これはASFファイルの仕様によるもので、修正モジュールをマイクロソフト株式会社が提供しています。下記から修正モジュールをダウンロードしてインストールしてください。

http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;816044

なお、上記のURLは予告なく変更される場合がありますので、ご了承ください。

MEDIA LIBRARYを使いこなす

FEATHER2004で録画した映像は、自動的にMEDIA LIBRARYに登録されます。MEDIA LIBRARY上でファイルをカテゴリ別で分類しておけば、お気に入りのファイルをわざわざ探す手間がはぶけ、すぐに映像を見ることができます。
また、お気に入りのファイルを追加登録できますので、パソコンに取り込んだ映像や静止画像も一緒に整理できます。

X Packシリーズをご使用の場合は、X-TransCoderを使って他の動画フォーマットに変換することもできます。詳しくは「4-3　MPEGファイルを高圧縮で変換する」146ページをご覧ください。

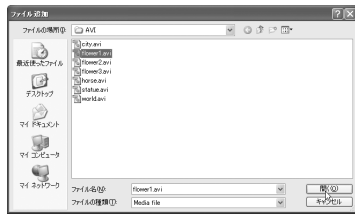
当社製HomeEdgeをご使用の場合、MEDIA LIBRARYとHomeEdgeはデータベースを共有します。そのためFEATHER2004で録画したファイルは、HomeEdge Explorerにも自動的に追加されます。

■ファイルを追加登録する

パソコンに取り込んだビデオ映像などのファイルをMEDIA LIBRARYに登録します。

1 FEATHER2004の[R1]ボタンをクリックします。

2 [ファイルの追加]ボタンをクリックします。

追加登録するファイルを選択し、[開く]をクリックします。

→ 選択したファイルがMEDIA LIBRARYに登録されます。追加したファイルのアイコンには「New」が表示されています。

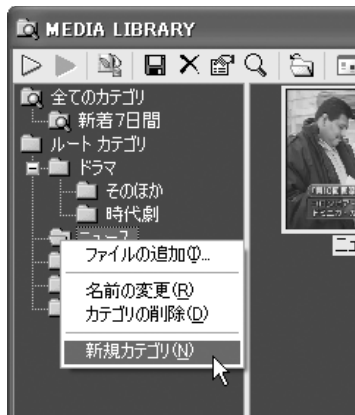
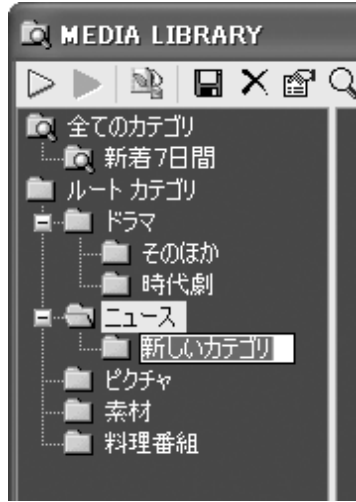
分類するルートカテゴリのフォルダを選択してから追加登録すると、そのフォルダ内にファイルを登録することができます。

■ファイルを分類する

ルートカテゴリに新しくフォルダを作成し、そのフォルダにファイルを移動させせます。

1. FEATHER2004の[R1]ボタンをクリックします。

2. フォルダを作成する階層より１つ上のフォルダ上で右クリックし、[新規カテゴリ]を選択します。

→ 選択したフォルダ内に新しいフォルダが作成されます。

3 フォルダにお好みの名前を付けます。

4 登録するファイルを新しいフォルダ上にドラッグします。

→ ファイルが新しいフォルダ内に移動します。

■ファイルを削除する

1

FEATHER2004の[R1]ボタンをクリックします。

2

削除するファイルを選択し、[削除]ボタンをクリックします。

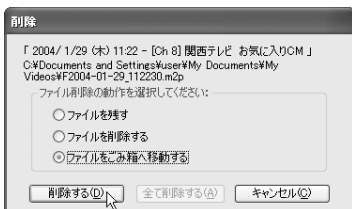
3

オプションを選択し、[削除する]をクリックします。

→ 選択したファイルが削除されます。

[ファイルを残す]：
MEDIA LIBRARYへの登録を解除します。元データは削除されません。

[ファイルを削除する]：
MEDIA LIBRARYへの登録を解除すると同時に、元データも削除します。

[ファイルをゴミ箱へ移動する]：
MEDIA LIBRARYへの登録を解除すると同時に、元データをゴミ箱へ移動させます。

■フォルダを削除する

ルートカテゴリ内にあるフォルダを削除します。

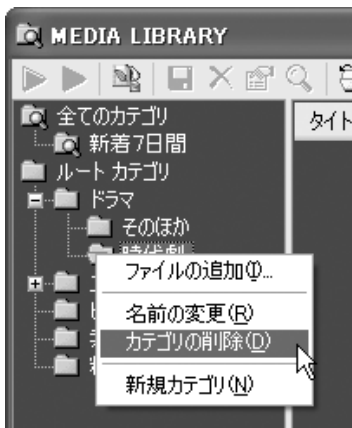
[全てのカテゴリ]フォルダと[新着 7 日間]フォルダ、[ルートカテゴリ]フォルダは削除できません。

フォルダ内にファイルが登録されているときは、削除できません。

1

FEATHER2004の[R1]ボタンをクリックします。

2

削除するフォルダを選択し、右クリックメニューから[カテゴリの削除]を選択します。

3

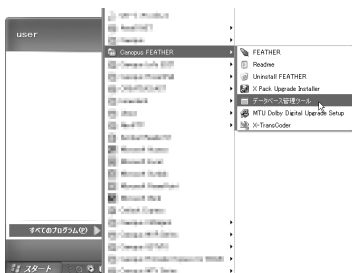
[はい]をクリックします。

→ 選択したフォルダが削除されます。

■データベースを管理する

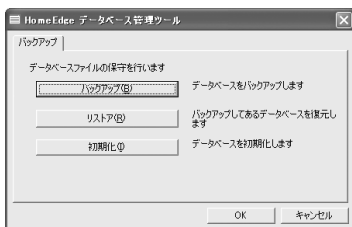
HomeEdgeデータベース管理ツールを使うと、MEDIA LIBRARYで使用するデータベースをバックアップしたり、初期化することができます。

FEATHER2004を起動させているときにデータベース管理ツールを使用しないでください。データベース管理ツールが正常に動作しない場合があります。

HomeEdgeデータベース管理ツールを起動するには、[スタート]メニューから[すべてのプログラム]（Windows 2000環境では[プログラム]）へ進み、[Canopus FEATHER]から[データベース管理ツール]を選択します。

次の画面が起動します。

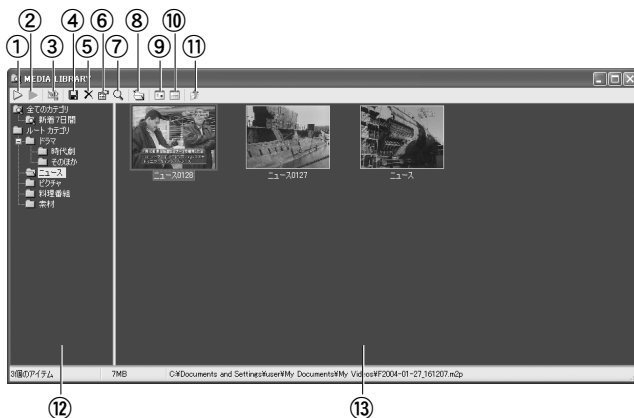
[バックアップ]ボタン
データベースのバックアップが作成できます。バックアップには任意の名前をつけることができます。

[リストア]ボタン
バックアップしているデータベースの内容をMEDIA LIBRARYに表示します。

[初期化]ボタン
データベースを初期化します。データベースの登録内容を初期化するため、元データは削除されません。

・HomeEdgeをご使用の場合は、MEDIA LIBRARYとデータベースを共有します。そのため、ここで初期化を行うとHomeEdgeのデータベースも同時に初期化されます。
・HomeEdgeをアンインストールすると、データベース削除を確認するメッセージが表示されます。MEDIA LIBRARYで引き続きデータベースを使用する場合は、データベースを削除しないでください。

MEDIA LIBRARYについて

MEDIA LIBRARYの画面やボタン、メニューなどについて説明します。

■ [MEDIA LIBRARY]画面

①[再生]ボタン
選んだファイルを再生します。

②[続きを再生]ボタン
一時停止したファイルをその場所から再生します。

③[X-TransCoder]ボタン
X-TransCoderを起動します(X-TransCoderをご使用になるには、別途X Packシリーズのいずれかが必要です)。

④[別名で保存]ボタン
選んだファイルを別名で保存します。

⑤[削除]ボタン
選んだカテゴリ別フォルダとファイルをMEDIA LIBRARYから削除します。

⑥[プロパティ]ボタン
選んだファイルのプロパティを表示します。プロパティでは、ファイル名の変更やコメントを追加できます。

⑦[フォルダを開く]ボタン
ファイルを選択してこのボタンをクリックすると、ファイルを保存しているフォルダを開きます。

⑧[ファイルの追加]ボタン
ファイルをMEDIA LIBRARYに追加登録します。

⑨[大きいアイコン]ボタン
ファイルリストの表示をサムネイル表示に切り替えます。

⑩[詳細]ボタン
ファイルリストの表示を詳細表示に切り替えます。

⑪[上へ]ボタン
選択したフォルダの上の階層にあるフォルダを選択します。

⑫フォルダツリー

登録したフォルダをツリー形式で表示します。

[すべてのカテゴリ]:
MEDIA LIBRARYに登録されているファイルをすべて表示します。

[新着7日間]:
録画日時が7日間以内のファイルをすべて表示します。フォルダ名や表示期間を変更するには、右クリックメニューから[プロパティ]を選択してください。

[ルートカテゴリ]:
お好みで複数のフォルダを作成することができます。作成したフォルダに任意で名前を付け、ファイルを分類・整理できます。

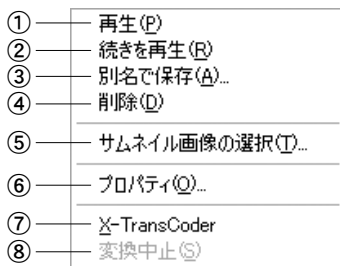
⑬ファイルリスト

選択したフォルダに登録されているファイルを表示します。サムネイル表示と詳細表示をボタンで切り替えることができます。詳細表示時に表示されるアイコンの意味は次のとおりです。

:録画後まだ再生されていないファイルを示します。

:再生されたファイルを示します。

:登録後、ファイルの保存場所が変更になったりファイルが削除されたことを示します。

■ファイル上での右クリックメニュー

①[再生]

選んだファイルを再生します。

②[続きを再生]

一時停止したファイルをその場所から再生します。

③[別名で保存]

選んだファイルを別名で保存します。

④[削除]

選んだカテゴリ別フォルダとファイルをMEDIA LIBRARYから削除します。

⑤[サムネイル画像の選択]

ファイルリストのサムネイル画像を、お好みの場面に変更することができます。

⑥[プロパティ]

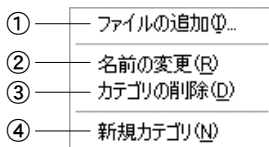
選んだファイルのプロパティを表示します。プロパティでは、ファイル名の変更やコメントを追加できます。

⑦[X-TransCoder]

X-TransCoderを起動します(X-TransCoderをご使用になるには、別途X Packシリーズのいずれかが必要です)。

⑧[変換中止]

ファイル変換の処理を中止します。

■ルートカテゴリにあるフォルダ上での右クリックメニュー

①[ファイルの追加]

選択したルートカテゴリ(またはフォルダ)にファイルを追加します。

②[名前の変更]

選択したルートカテゴリ(またはフォルダ)の名前を変更します。

③[カテゴリの削除]

ルートカテゴリ内の選択したフォルダを削除します。

④[新規カテゴリ]

ルートカテゴリ内に新しいフォルダを作成します。

OSDメニュー DVP

DigitalVideoPlayer(VideoGate 1000 + CRMシリーズリモコン)をご使用の場合は、テレビ画面上に表示されるOSDメニューをリモコンで操作し、予約録画やMEDIA LIBRARYの各操作を行うことができます。

DigitalVideoPlayerのOSDメニューからテレビ視聴や予約録画するには、MTVシリーズが必要です。

■OSDメニューを表示する

1 [L1]ボタンから[設定]へ進み、[リモートモード（TV出力）]を選択します。またはリモコンの[Shift]ボタンを押しながら[VIDEO]ボタンを押します。

2 リモコンの[L1]ボタンを押します。

→テレビ画面にOSDメニューのメインメニューが表示されます。

上の画面は、MTVシリーズを併用している場合に表示されます。その他の製品をご使用の場合は、[TV]と[予約録画]が表示されません。

■メインメニュー

①[予約録画]ボタン

予約録画の一覧を表示します（74ページ）。

②[デスクトップ]ボタン

パソコンのデスクトップを表示します。表示中に[L1]ボタンを押すと、メインメニューを表示します。

③[TV]ボタン

テレビ放送を表示します。表示中に[L1]ボタンを押すと、メインメニューを表示します。

④[MEDIA LIBRARY]ボタン

MEDIA LIBRARYを表示します（75ページ）。

⑤カーソル

現在選択している項目を示します。

⑥リモコン案内

リモコンに割り当てられた機能を表示します。

■予約録画画面

メインメニューで[予約録画]ボタンを選択すると、次の画面が表示されます。

この画面では、予約状況を確認することができます。

追加で予約する場合は、リモコンの[L3]ボタンを押します。次の画面が表示されますので、録画予約を設定します。

■MEDIA LIBRARY画面

メインメニューで[MEDIA LIBRARY]ボタンを選択すると、次の画面が表示されます。

リモコンの[L2]ボタンを押すたびに、表示を切り替えることができます。

選択したファイルの詳細を確認するときは、リモコンの[L3]ボタンを押します。次の画面が表示されます。

画面右に表示されるメニューから各動作を実行することができます。

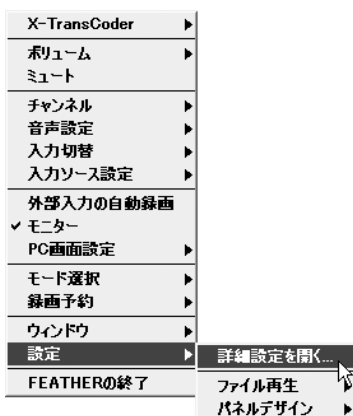
2-7 静止画をキャプチャする

静止画をキャプチャする

お気に入りの場面を静止画キャプチャし、ファイルに保存する手順について説明します（２画面表示モードでは、メインスクリーンに表示された映像がキャプチャの対象となります）。

・静止画キャプチャ時、オーバーレイサイズによっては、縦サイズが実際の半分になる場合があります。
・モードや再生しているファイルの種類によって、静止画をキャプチャできない場合があります。

1 [L1]ボタンから[設定]に進み、[詳細設定を開く]を選択します。

→[FEATHER設定]画面が表示されます。

2 左メニューから[保存先]を選択します。

3 静止画の保存先、保存ファイル名を指定し、[OK]をクリックします。

4 静止画キャプチャしたいテレビ、またはビデオ映像をオーバーレイウィンドウに表示します。

参照　テレビ映像を表示する場合は、「テレビ番組を表示する」31ページを参照してください。

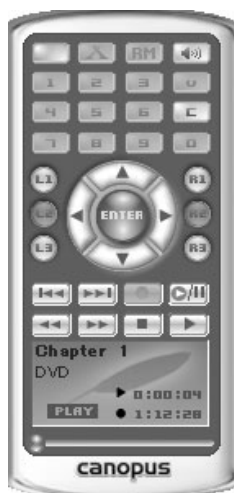
参照　ビデオ映像を表示する場合は、「ビデオの映像を見る」42ページを参照してください。

5 お気に入りの場面にきたら[L2]ボタンをクリックします。

→ キャプチャされた静止画が指定した保存先に保存されます。

2-8 DVDを再生する

DVDを再生する

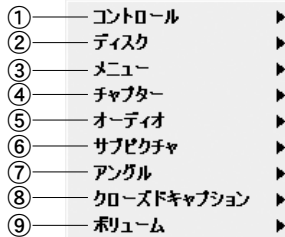
DVD再生モードは、市販のDVDディスクを再生するモードです。DVDをお楽しみいただくには、お使いのパソコンにDVDを読み取り可能なドライブが搭載されている必要があります。
DVD再生モードへの切り替えは、[L1]ボタンの[入力切替]から[DVD再生]を選択します。

■[C]ボタン

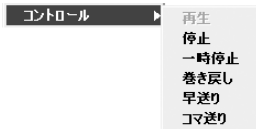
ディスクの挿入/取り出しを行います。

■[R1]ボタン

MEDIA LIBRARYを表示します。

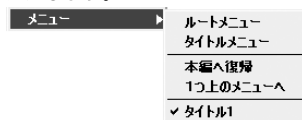
■[L1]ボタン

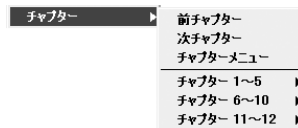
DVDの基本的な操作を行うためのメニューが表示されます。また、オーバーレイ上で右クリックすることでも同じメニューが表示されます。

①コントロール

基本的な動作を行います。

②ディスク

ディスク取り出し、自動再生の設定を行います。

③メニュー

ルートメニューまたはタイトルメニューからお好みの場面を選択しジャンプします。

④チャプター

複数のチャプターに分けられているディスクの場合、特定の位置へジャンプします。前チャプター、次チャプターなどから選択します（左ボタンでも同様の操作が行えます）。

⑤オーディオ

複数の言語を選択できるディスクの場合、オーディオメニューを選択します（右ボタンでも同様の操作が行えます）。

⑥サブピクチャ

サブピクチャトラックが用意されているディスクの場合、字幕の選択が可能となります（右ボタンでも同様の操作が行えます）。

サブピクチャ
サブピクチャメニュー
✓オフ

⑦アングル

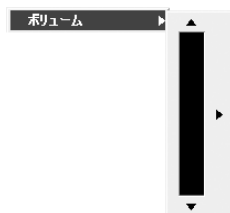
複数のアングルがディスクに記録されている場合、お好みのアングルを選択することができます。

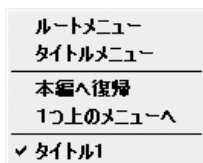
⑧クローズドキャプション

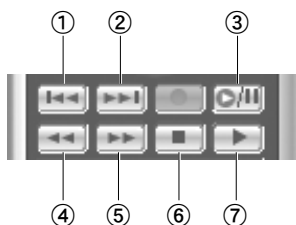
クローズドキャプション対応のDVDディスクの場合、セリフやナレーションが画面に字幕表示されます。

⑨ボリューム

ボリュームを設定します(FEATHER2004の上下ボタンでも同様の操作が可能です)。

▶でデフォルト値に戻ります。

■[L3]ボタン

ルートメニューまたはタイトルメニューからお好みの場面を選択しジャンプします。[L1]ボタンのメニューからも同様の操作が可能です。

■DVD再生コントロールボタン

DVD再生コントロールボタンは、DVD再生に関するコントロールを行います。通常のDVDプレイヤーとほぼ同じように動作します。

①前チャプターボタン

前のチャプターにジャンプします。

②次チャプターボタン

次のチャプターにジャンプします。

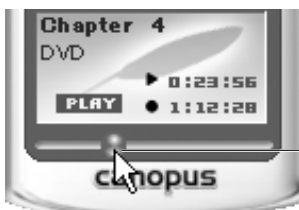
③[一時停止]ボタン
再生を一時停止します。

④[巻戻し]ボタン
巻戻し再生を行います。

⑤[早送り]ボタン
早送り再生を行います。

⑥[停止]ボタン
再生を停止します。

⑦[再生]ボタン
DVDの再生を開始します。

スライダを操作することにより、お好みの場面に移動できます。

第３章
FEATHER2004を使いこなそう

この章では、各種の設定項目について説明します。

3-1 メニューリストから操作をする

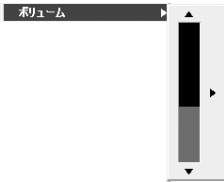
操作パネルの[L1]ボタンをクリックします。

設定を調節するメニューリストを表示します。

オーバーレイスクリーン上の右クリックメニューも同じ内容を表示します。

本章では、MTV3000ボードを使用し、チューナー入力を選択している場合で説明しています。
ご使用のボードの種類や、入力元（[入力切替]を参照）により表示される項目は異なります。

視聴に関する操作をする

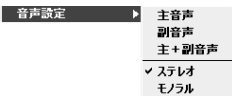
[ボリューム]

ボリュームを調節します。[▶]をクリックすると初期値に戻ります。

[ミュート]

消音します。再びクリックすると元のボリュームに戻ります。

[チャンネル]

チャンネルを切り替えます。

[音声設定]

主音声、副音声、またはステレオ/モノラルを切り替えます。

MTV3000の２画面表示モードでは、録画を行っている画面、テレビ視聴を行っている画面それぞれについて設定できます。

[入力切替]

入力元を切り替えます。

[入力ソース設定]

映像の調整、ゴースト低減機能の設定をします。
製品により設定できる項目は異なります。

[ビデオプロセッシング]

コンポジット信号の3次元YC分離、ノイズフィルターの設定をします。MTUシリーズでは2次元YC分離を設定できます。

MTV3000、MTV2000 Plusでは、W3Dの設定ができます。2画面表示モードでは、録画画面、テレビ視聴画面のそれぞれについてビデオプロセッシングの設定ができます。

録画・変換に関する操作をする

[X-TransCoder]

X-TransCoder ▶ X-TransCoderを表示する
Background Transcode

[X-TransCoderを表示する]を選択すると『X-TransCoder』が起動します(「X-TransCoderを起動する」147ページ参照)。[Background Transcode]を選択すると、追っかけ変換を実行します。QSTV10、QSTV15、USTV-1では、ご使用になれません。

[外部入力の自動録画]

チェックを入れると、コンポジットまたはSビデオ信号を監視し、信号を検出すると録画を開始し、信号がなくなると録画を停止します。

[モード選択]

モード選択 ▶ ✓ MTV3000W
ソフトウェアモード

ハードウェアエンコードを行う場合は接続しているボード名を選択します(MPEGファイルを作成します)。ソフトウェアエンコードを行う場合は[ソフトウェアモード]を選択します。

[録画予約]

録画予約 ▶ 番組表(リモコン操作)...
番組表(マウス操作)...
予約一覧表示...
新規予約...

インターネット番組表の表示、録画予約の一覧、新規予約画面を表示します。

画面に関する操作をする

[モニター]

オーバーレイ表示を行います。

[PC画面設定]

パソコンの画面表示（明るさ、コントラスト、色の濃さ）を調整します。[▶]で初期値に戻ります。

[ウィンドウ]

表示する画面サイズを選択します。

[Direct Preview] MTU シリーズ

ダイレクトプレビューのオン、オフを選択します。

[アスペクト比]

アスペクト比を設定します。

[１画面時にＷチューナーパネルを表示する] MTV 3000

チェックを入れると、1画面表示モードの場合も２画面コントロールパネルを表示します。

[画面モード] MTV 3000

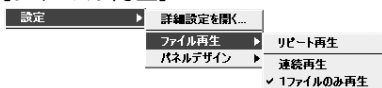
1画面表示、2画面表示から選択します。

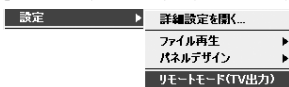
3-1 メニューリストから操作をする

そのほかの項目について

[設定]：
[詳細設定を開く]

FEATHER設定画面を表示します(「3-2 [FEATHER設定]画面から設定をする」90ページ参照)。

[ファイル再生]

MEDIA LIBRARYに登録したファイルの再生方法を設定します。

[リモートモード(TV出力)] DVP

リモートモードと従来モードを切り換えます。チェックを入れるとリモートモードになり、テレビ出力を行います。

[パネルデザイン]

操作パネルのデザインを選択します(「パネルデザインの設定をする」130ページ参照)。

[FEATHERの終了]

FEATHER2004を終了します。

■ビデオプロセッシングについて

高画質実現のために３次元YC分離とノイズ・リダクションを採用している製品があります。

MTV3000では、この２つの機能を同時に使用するW3Dモードを追加しました。

ただし、１画面表示モードと２画面表示モードでは設定できる項目が異なりますので次表を参考に設定してください。

■１画面モード（Aチューナーからの信号）

選　択	選択不可
３次元YC分離単独	ノイズ・リダクション単独／W3D
ノイズ・リダクション単独（「弱」または「強」選択可）	３次元YC分離単独／W3D
W3D　※１	３次元YC分離単独／ノイズ・リダクション単独

※１　W3Dモードでは、ノイズ・リダクションを「強」または「弱」に設定することができます（「■［画質設定］」93ページ参照）。

※　いずれも選択しない場合には「なし」を選びます。

■2画面モード（メインスクリーン、サブスクリーンそれぞれについて設定することができます）

選　択	選択不可
３次元YC分離	ノイズ・リダクション
ノイズ・リダクション（「弱」または「強」選択可）	３次元YC分離

※2画面モードではW3Dモードを使用することはできません（録画時にW3Dモードを使用する設定を行っている場合、強制的にW3Dモードを使用した1画面表示となります）。

※いずれも選択しない場合には「なし」を選択します。

MTV2000 Plusは、３次元YC分離と３次元ノイズリダクションを同時に機能させることができます。

3-1 メニューリストから操作をする

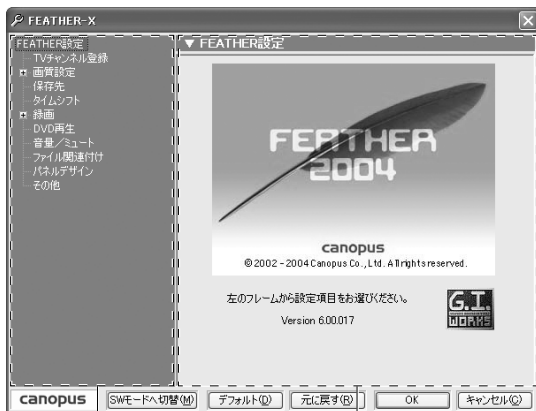
3-2 [FEATHER設定]画面から設定をする

[FEATHER設定]画面について

FEATHER2004に関するさまざまな設定を行います。

1. 操作パネルの[L1]ボタンをクリックします。

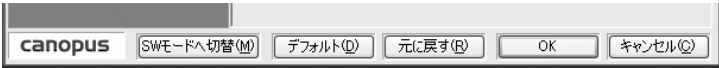
2. メニューリストの[設定]から[詳細設定を開く]を選択します。スクリーン上の右クリックメニューからも選択することができます。

3. 左メニューで設定する項目名をクリックし、設定入力画面で設定をします。

左メニュー

設定項目を表示します。

設定入力画面

設定内容を表示します。

・左メニューの表示内容は、パソコンに接続している当社製対応製品の種類や[モード選択]の設定により異なります。
・設定入力画面の設定は、パソコンに接続している当社製対応製品の種類や[モード選択]の設定([HWモードへ切り替え/SWモードへ切り替え]ボタンの設定を含みます)により入力できない場合(グレーアウト表示)があります。

[HWモードへ切り替え/SWモードへ切り替え]ボタン

HW(ハードウェア)モード／SW(ソフトウェア)モードを切り替えます。

※MTUシリーズ、QSTV10、QSTV15、USTV-1では機能しません。

[デフォルト]ボタン

選択中の設定入力画面の設定を、初期設定にします(ポイント参照)。

[元に戻す]ボタン

選択中の設定入力画面の設定を、変更する直前の設定に戻します。

[OK]ボタンをクリックします。設定が変更されます。

Q　インストールした直後で、とくに設定はしていないのですが、テレビが白黒で表示されます。

A　不具合などがある場合、初期設定値がずれていることがあります。このような場合は初期設定値のセットをお試しください。

左メニューから各設定項目を選択し、[デフォルト]ボタンをクリックします。初期設定値がセットされます。

設定項目について

FEATHER2004に関するさまざまな設定を行います。

①[FEATHER設定]

バージョン情報を表示します。

②[TVチャンネル登録]（27ページ参照）

テレビのチューニングを設定します。

③[画質設定]（93ページ参照）

入力元ごとに画質を設定します。
パソコンに接続している当社製対応製品により、設定内容は異なります。

④[保存先]（106ページ参照）

録画、静止画キャプチャファイルの保存先を設定します。

⑤[タイムシフト]（107ページ参照）

タイムシフトモード時の設定を行います。

⑥[録画]（108ページ参照）

エンコードの設定、ファイル拡張子の設定をします。
パソコンに接続している当社製対応製品により、設定内容は異なります。

⑦[DVD再生]（128ページ参照）

DVD再生の設定を行います。

⑧[音量／ミュート]（129ページ参照）

音量の調節、ミュート（消音）を行うデバイスを選択します。

⑨[ファイル関連付け]（131ページ参照）

FEATHER2004と関連付けるファイルの拡張子を選択します。

⑩[パネルデザイン]（130ページ参照）

TV視聴、ファイル再生、DVD再生時のパネルデザイン（スキン）を変更します。

⑪[その他]（132ページ参照）

VideoGateモード、スキップボタン設定、ファイル再生、トラブルシューティングに関する設定を行います。

画質の設定をする

■[画質設定] MTV 3000

W3D設定：

1画面モードでW3D(3DYC・3DNR同時使用)を使用する場合、[W3Dを使用する]にチェックを入れます。

[ノイズリダクション]

[W3Dを使用する]にチェックを入れると、ノイズ・リダクションの[強]または[弱]を設定することができます。

■[ビデオ入力設定]

［ビデオ入力設定］は録画結果に反映されます。デフォルト（初期設定）の設定でご使用されることを推奨します。

入力カラー調整：
[明るさ]、[コントラスト]、[色あい]、[色の濃さ]、[シャープネス]
入力映像を調整します。スライダを左右に移動させ、表示状態を調整します。

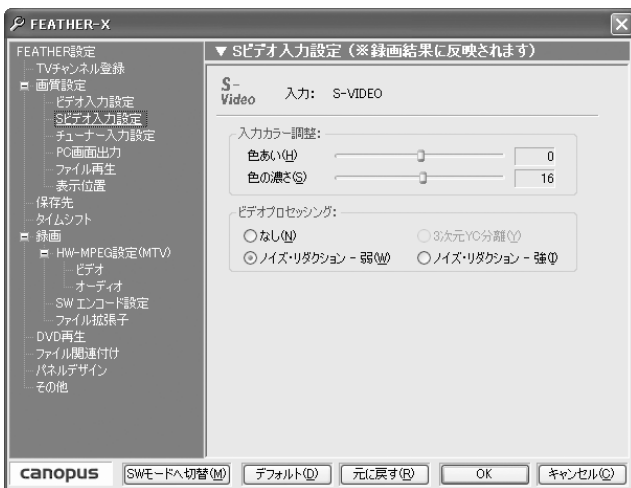
ビデオプロセッシング：
コンポジット信号の3次元YC分離、ノイズリダクションを設定します。
QSTV10/USTV-1、MTV800/MTV1000/MTV1200では設定できません。

パソコン画面の表示（オーバーレイ）については「■[PC画面出力]」100ページを参照してください。

■[Sビデオ入力設定]

[S ビデオ入力設定]は録画結果に反映されます。デフォルト(初期設定)の設定でご使用されることを推奨します。

MTV 3000

MTU シリーズ

入力カラー調整：
[明るさ]、[コントラスト]、[色あい]、[色の濃さ]、[シャープネス]

録画映像を調整します。スライダを左右に移動させ、表示状態を調整します。

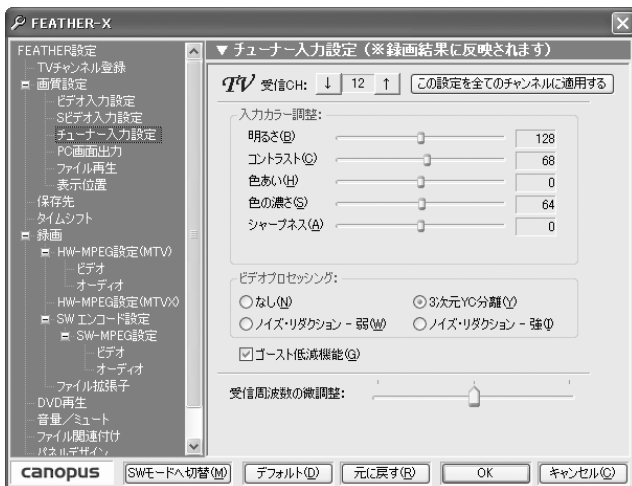
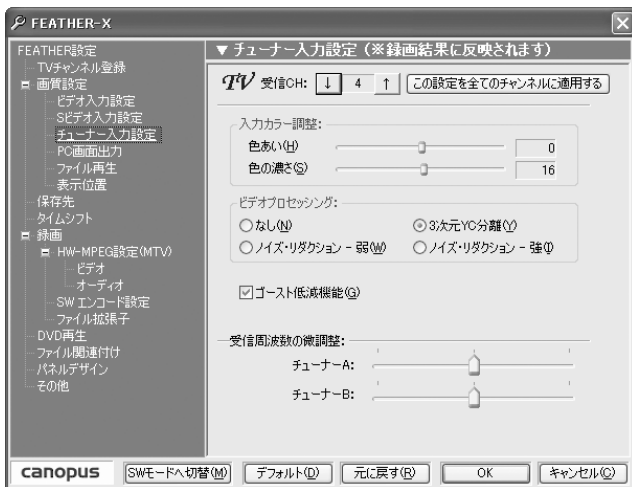
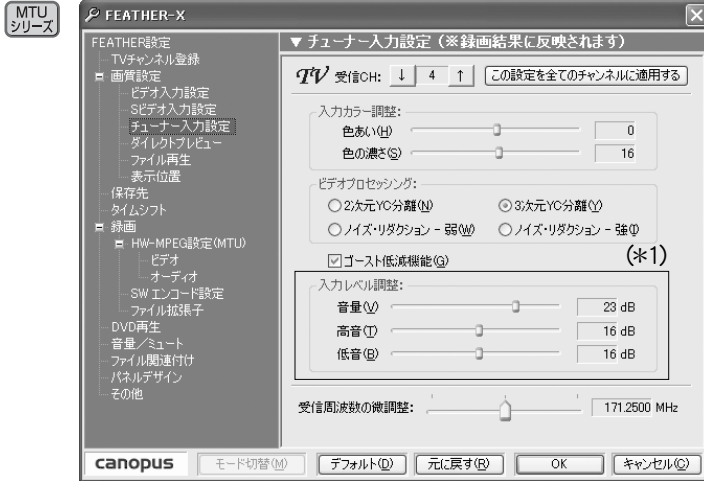
ビデオプロセッシング：

ノイズリダクションを設定します。QSTV10/USTV-1、MTV800/MTV1000/MTV1200では設定できません。

パソコン画面の表示（オーバーレイ）については「■[PC画面出力]」100ページを参照してください。

Q：Sビデオとコンポジット、どちらの入力を使えばいいですか？
A：ご使用のビデオデッキに高性能なY/C分離機能が搭載されている場合はSビデオ入力が効果的です。

■[チューナー入力設定]

［チューナー入力設定］は録画結果に反映されます。デフォルト（初期設定）の設定でご使用されることを推奨します。

入力カラー調整：
[明るさ]、[コントラスト]、[色あい]、[色の濃さ]、[シャープネス]

録画映像を調整します。スライダを左右に移動させ、表示状態を調整します。

ビデオプロセッシング：

3次元YC分離、ノイズリダクションを設定します。QSTV10/USTV-1、MTV800/MTV1000/MTV1200では設定できません。

[ゴースト低減機能]

ゴーストリデューサーを設定します（ポイント参照）。
USTV-1では設定できません。

受信周波数の微調整：

受信周波数を微調整します。
受信状態を確認しながら、スライダを左右に移動させせます。
MTV3000の場合は、2つのチューナーを別々に調整することができます。
※ 受信状態が悪い場合は、アンテナやアンテナ線との接続などもご確認ください。

入力レベル調整：（＊1）

音量と、高音、低音を調整します。
※ 製品により設定できる項目は異なります。

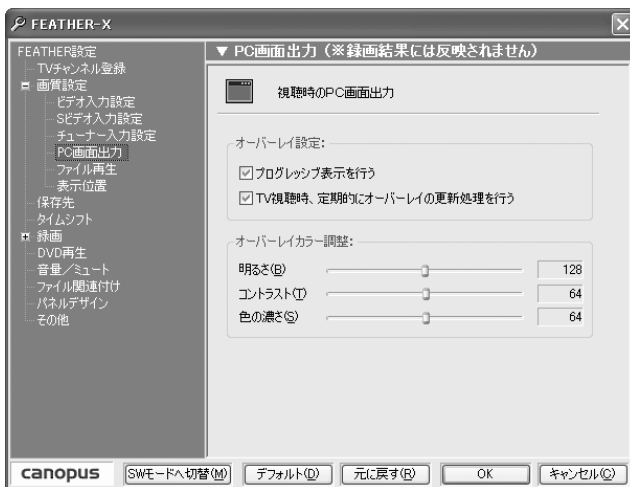
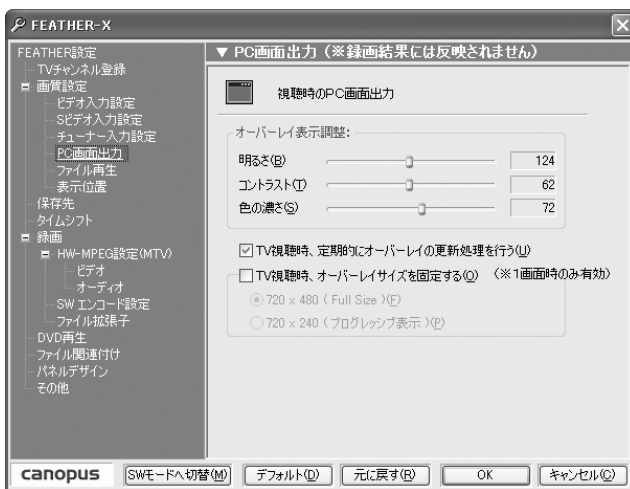
ゴースト低減機能

テレビ信号に含まれるゴースト検出信号の遅延と減衰を検出し10個の回路に設定（10Tap　デジタルゴーストリデューサー）をすることで、ゴーストを低減します。
※ゴースト除去用の信号が正常に受信できない地域では効果が無い場合があります。
※10個以上のゴーストは原理的に低減できません。
※ゴースト低減機能は、チャンネル選択後1秒～2秒後に機能し、画像が安定するまで1分程度かかります。

パソコン画面の表示（オーバーレイ）については「■[PC画面出力]」100ページを参照してください。

■[PC画面出力]

ソフトウェアモードの場合や、MTUシリーズをご使用の場合は表示されません。

［PC画面出力］の設定は録画結果に反映されません。

オーバーレイ設定：[プログレッシブ表示を行う]

プログレッシブ再生を行います。

[TV視聴時、定期的にオーバーレイの更新処理を行う]

テレビ出力機能を持ったグラフィックボードをご使用の場合に、オーバーレイが更新されない現象が生じた時にこの設定をお試しください。ただし、更新を非同期で行うため、カクカクした動きになることがあります。

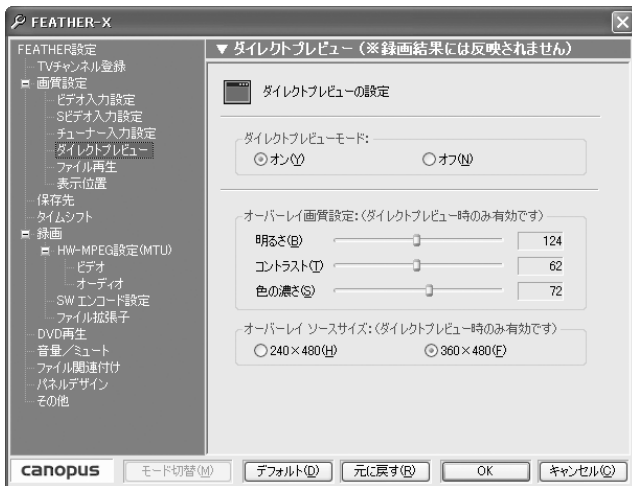
オーバーレイカラー調整：[明るさ]、[コントラスト]、[色の濃さ]

スライダを左右に動かし、適切な表示状態になるように調整します。
MTV3000の場合は、項目名が[オーバーレイ表示調整：]と表示されます。設定内容は同じです。

[TV視聴時、オーバーレイサイズを固定する]

1画面時のオーバーレイのサイズを固定します。
720×240を選択すると、プログレッシブ再生を行います。

■[ダイレクトプレビュー] MTU シリーズ

[ダイレクトプレビュー]の設定は録画結果に反映されません。

ダイレクトプレビューモード:

USB2.0の高速転送を利用し、パソコンに表示されるテレビ映像と実放送との遅延の差を限りなく少なくします(ポイント参照)。[オーバーレイ画質設定:]、[オーバーレイソースサイズ:]は、ダイレクトプレビューモードをオンにした場合に設定することができます。
※プログレッシブ機能は動作しません。

オーバーレイ画質設定:[明るさ]、[コントラスト]、[色の濃さ]

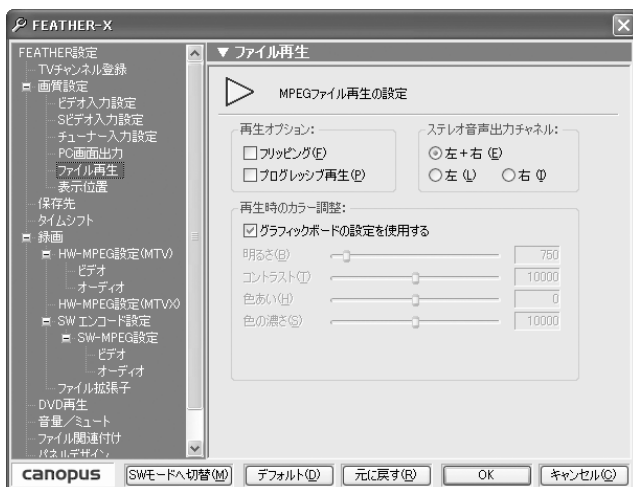
スライダを左右に動かし、適切な表示状態になるように調整します。

オーバーレイソースサイズ:

オーバーレイのサイズを設定します。

ダイレクトプレビューをオンにすると、有効画素720x480のビデオデータを360x480または240x480に縮小しMPEG圧縮を行わずにビデオデータのみをUSB経由でパソコンに転送して再び720x480の映像に拡大して表示するモードに設定されます。音声はMTU本体背面のステレオミニジャックから出力されます。
ダイレクトプレビューをオフにすると、MPEG圧縮エンコードされたビデオオーディオデータをUSB経由でパソコンに転送し、パソコン側で伸張(デコード)して表示するモードに設定されます。音声はサウンドカード(WAVE出力)から出力されます。

■[ファイル再生]

ソフトウェアモードの場合は設定できません。

再生オプション：

[フリッピング]

ティアリング（動きのある部分が横線でずれて見える）が出る場合に設定します。

[プログレッシブ再生]

プログレッシブ再生を行います（ポイント参照）。

ステレオ音声出力チャネル：

音声出力を行うチャネルを設定します。

再生時のカラー調整：

[グラフィックボードの設定を使用する]

デフォルトで設定されています。チェックを外すとスライダで調整することができます。

偶数・奇数フィールドを個別に1/60秒間隔で更新し、フィールドを補間して表示を行います。非インタレース映像（例:MPEG1およびMPEG2のSIFサイズのもの）では機能しません）。

■[VideoGate設定] DVP

ビデオ：

[出力を1ラインずらす]

VideoGateで再生したときに、ブレが生じた場合はチェックを入れてください。

[横幅640/480/320ドットを720ドットに拡大する]

横幅640、480、320の解像度を720に拡大します。

[高品質拡大]

元の画像サイズが小さく、拡大表示するときにチェックを入れます。

[オーバーレイの表示]

オーバーレイ表示をします。

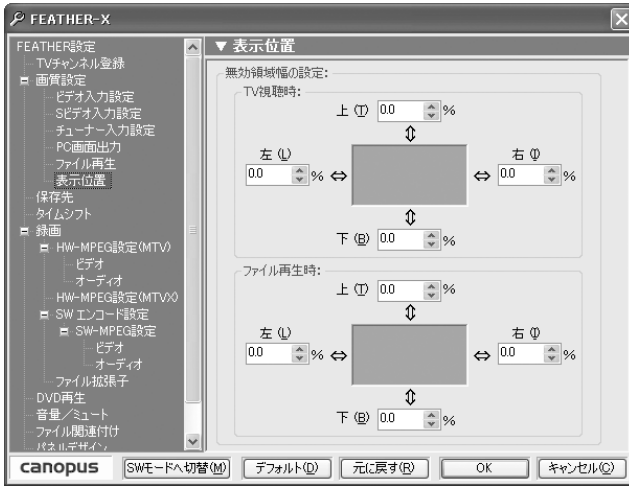
YUV変換オプション：

[フィールド優先]

動きが激しい映像の場合に選択します。

[フレーム優先]

動きが少ない場合に選択します。

■[表示位置]

無効領域幅の設定：
TV視聴時：、ファイル再生時：

無効領域の幅を設定（0～10%）します。
設定した無効領域幅は削除され、有効表示部分が拡大します。
MTV3000の場合は、1画面モード時のみ有効です。

保存先の設定をする

録画ファイル、静止画ファイルの保存先を設定します。

■[保存先]

録画：

録画ファイルの保存フォルダを設定します。

静止画キャプチャ：

静止画ファイルの保存フォルダを設定します。

[保存ファイル名]

ファイル名(自動生成されるファイル名の先頭に追加されます)を設定します。

・[参照]ボタンをクリックし、[フォルダの参照]画面からフォルダを設定します。
・[保存先]に直接キーボードから入力することができます。

タイムシフトの設定をする

■[タイムシフト]

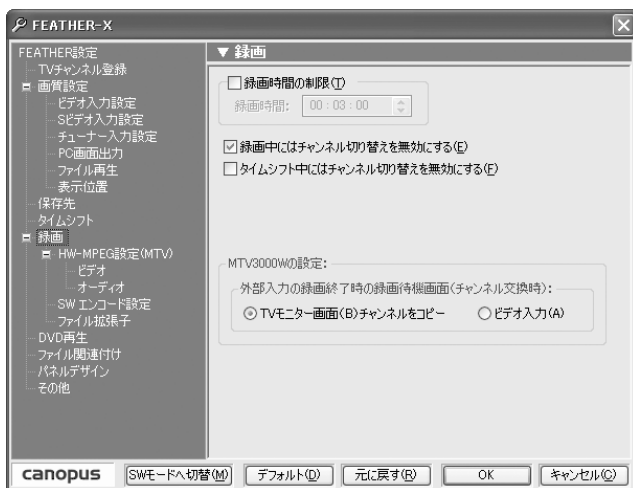
タイムシフトモード：

[標準モード]では、タイムシフトのためのバッファは、タイムシフトが終わると消去されます。また、タイムシフトが可能な時間は、[ディスク容量から自動計算する]、[指定する]のどちらかから選択します。[録画モード]では、タイムシフトのために録画を行います。

バッファを作成する場所：

タイムシフトのためのバッファデータを保存するフォルダを設定します。

エンコードの設定をする

■[録画]

[録画時間の制限]

録画時間の上限を設定します。

[録画中にはチャンネル切り替えを無効にする]

録画中の入力元、チャンネルの切り替えを禁止します。

[タイムシフト中にはチャンネル切り替えを無効にする]

タイムシフト中のチャンネル切り替えを禁止します。

MTV3000Wの設定：

外部入力の録画終了時の待機画面（チャンネル交換時）：

待機画面を設定します。

■[HW-MPEG設定（MTVX）] MTVX 2004

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」166ページを参照してください。

画質：

画質を選択します。

[高画質]

画像サイズ720×480、ビットレート8000kbps（CBR）で録画します。

[標準]

画像サイズ720×480、ビットレート5000kbps（CBR）で録画します。

[標準2]

画像サイズ480×480、ビットレート4000kbps（CBR）で録画します。

[長時間]

画像サイズ352×480、ビットレート3000kbps（CBR）で録画します。

[簡易]

画像サイズ352×240、ビットレート2000kbps（CBR）で録画します。

[お好み１～5]

[ビデオ設定:]、[オーディオ設定:]をカスタマイズすることができます。

※MPEGに関する知識が必要です。通常は、[高画質]、[標準]、[標準2]、[長時間]、[簡易]から選択してください。

ビデオ設定：

[画像サイズ]

録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。

[固定ビットレート]（CBR）

ビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます。
動きのある場面の画質が他の場面と比べて低下します。
平均のビットレートを設定します。

[可変ビットレート]（VBR）

ビデオのデータ量が場面によって変動します。
ビットレートの上限を設定するか、画質を設定します。

GOP：

[I frame]

すべてのフレームをIピクチャとして記録します。編集に向きます。

[IBBP]

一般的なMPEGの機能で録画データを記録します。編集には不向きです。
[ピクチャ枚数:]
ひとつのGOPに含まれるフレームの数を設定します。
[周期:]
ひとつのGOPに含まれるIフレームとPフレームの数を設定します。

オーディオ設定：

[形式]

圧縮形式を設定します。

[ビットレート]

圧縮比率を設定します。

[プリエンファシス]

高音域を強調します。

■[HW-MPEG設定（MTV）] MTVシリーズ

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」166ページを参照してください。

ビデオ形式：

[MPEG1]、[MPEG2]

エンコード形式を設定します。

[VideoCD]

VideoCDの規格に準拠したエンコード形式に設定します。

[DVD-MovieAlbumインポート情報の出力]

当社製品『DVD-MovieAlbum』向けのインポート情報を付加します。

ストリーム：

[オーディオ]

オーディオ信号をエンコードし、エレメンタリストリームをファイルに記録します。

[ビデオ]

ビデオ信号だけをエンコードし、エレメンタリストリームをファイルに記録します。

[オーディオ＋ビデオ]

オーディオ信号とビデオ信号をそれぞれエンコードし、エレメンタリストリームを別々のファイルに記録します。

[プログラムストリーム]

オーディオ信号とビデオ信号のそれぞれをエンコードし、その結果を多重化して１つのファイルに記録します。

※ビデオ形式がMPEG1の場合には、システムストリームによる多重化になります。

[画質]

[高画質]

画像サイズ720×480、ビットレート8Mbpsで録画します。

[普通]

画像サイズ720×480、ビットレート5Mbpsで録画します。

[1/2 解像度]

画像サイズ352×480、ビットレート3Mbpsで録画します。

[1/4 解像度]

画像サイズ352×240、ビットレート2Mbpsで録画します。

[マニュアル設定]

ビデオ、オーディオの設定をカスタマイズすることができます。[マニュアル設定]を選択すると、[詳細]ボタンをクリックすることが可能になり、[ビデオ]、[オーディオ]の設定画面で入力ができるようになります。

※ＭＰＥＧに関する知識が必要です。通常は[高画質]、[普通]、[1/2　解像度]、[1/4　解像度]から選択してください。

[録音レベル]

100%以外の設定では、すべての音声に対してレベル調整処理を行いますので、システムに対して負荷がかかります。お使いの環境によっては、キャプチャに失敗する場合があります。

■[ビデオ] ‒ HW-MPEG設定の詳細 ‒ (MTV) MTVシリーズ

・この項目は、[HW-MPEG設定(MTV)]の[画質]で[マニュアル設定]を選択した場合に、設定することができます。
・[HW-MPEG設定(MTV)]で設定した内容により、設定可能な項目が異なります。

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」166ページを参照してください。

プロファイルとレベル：

MPEG2のプロファイルとレベルを設定します。
通常は[MP@ML]選択します。

ビットレート：

ビデオデータのビット量を設定します。

[CBR、VBR]

ビデオデータ量をほぼ一定に保つ場合はCBRを、ビデオデータ量の変動を許容する場合はVBRを選択します。

GOPパターン：

一般的なMPEGの機能で録画する場合はIBBPを、すべての録画データのフレームをI ピクチャとして記録する場合はI Frameを選択します。通常は、IBBP を選択します。

GOPオプション：(後記ポイント参照)

[GOP完結]

通常は使用しません。エンコードしたMPEGファイルに何らかの処理を行う場合に選択します。

[Closed GOP]

通常は使用しません。Closed GOP構造のMPEGファイルをGOP単位で編集ができるようなソフトウェアをご使用になる場合に選択します。

[画像サイズ]

録画データを記録するときの、1 画面あたりのピクセル数を設定します。

[アスペクト比]
録画データのアスペクト比を選択します。
映像のアスペクト比に合わせてください。

[スタンダード]
テレビ方式の設定です。
[NTSC]のみ選択できます。

GOPオプション
当社製MpegCraft LEなどで編集する場合、GOPオプションにチェックを入れることを推奨します。

■[オーディオ] – HW-MPEG設定の詳細 –(MTV) MTVシリーズ

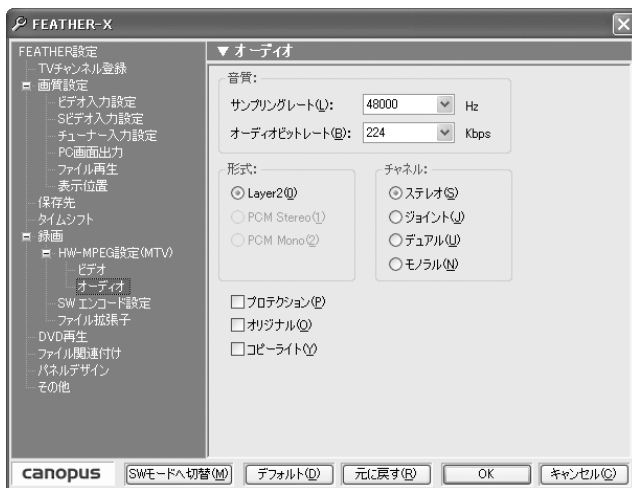
- この項目は、[HW-MPEG設定(MTV)]の[画質]で[マニュアル設定]を選択した場合に、設定することができます。
- [HW-MPEG設定(MTV)]で設定した内容により、設定可能な項目が異なります。

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」166ページを参照してください。

音質：

[サンプリングレート]
32KHz、44.1kHz、48kHzから選択します。

[オーディオビットレート]
圧縮比率を設定します。

形式：

[Layer 2]
MPEGオーディオのレイヤ2規格に基づいて、オーディオ信号を圧縮します。

[PCM Stereo]、[PCM Mono]

非圧縮のリニアPCMデータを記録します。ビデオをエレメンタリストリームとして記録する場合にのみ選択できます。

チャネル：

[ステレオ]

LチャネルとRチャネルの信号にある程度の相関がある場合に選択します。音楽などのステレオ信号をエンコードする場合に選択します。

[ジョイント]

LチャネルとRチャネルの信号の相関が強い場合に選択します。

[デュアル]

LチャネルとRチャネルの信号に相関がほとんどない場合、各チャネルに全く別の音を記録する場合などに選択します。

[モノラル]

1チャネルだけのオーディオ信号を記録します。Lチャネルの入力端子に入力された信号だけが記録されます。

[プロテクション]

オーディオデータにエラーチェックコードが付加されます。

[オリジナル]

オーディオデータのヘッダー部に、オリジナルデータであることが記録されます。お客様が創作したオーディオ信号をエンコードする場合以外は、チェックを入れないでください。

[コピーライト]

データに著作権があることを、録画データのヘッダー部に記録します。

■[HW-MPEG設定（MTU）] MTUシリーズ

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」166ページを参照してください。

画質：

画質を選択します。

[MPEG2高画質]

画像サイズ704×480、ビットレート最大9500kbps平均8000kbps（VBR）で録画します。

[MPEG2標準]

画像サイズ704×480、ビットレート最大4500kbps平均4500kbps（VBR）で録画します。

[MPEG2長時間]

画像サイズ352×480、ビットレート最大6000kbps平均3000kbps（VBR）で録画します。

[MPEG2簡易]

画像サイズ352×240、ビットレート最大4000kbps平均2000kbps（VBR）で録画します。

[MPEG1]

画像サイズ352×240、ビットレート最大1800kbps平均1500kbps（VBR）で録画します。

[お好み1～5]

[ビデオ設定:]、[オーディオ設定:]をカスタマイズすることができます。

※MPEGに関する知識が必要です。通常は[MPEG2高画質]、[MPEG2標準]、[MPEG2長時間]、[MPEG2簡易]、[MPEG1]から選択してください。

■[ビデオ] – HW-MPEG設定の詳細 –(MTU) MTUシリーズ

・この項目は、[HW-MPEG設定(MTU)]の[画質]で[お好み1～5]を選択した場合に、設定することができます。
・[HW-MPEG設定(MTU)]で設定した内容により、設定可能な項目が異なります。

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」166ページを参照してください。

ビデオ形式：

録画時のデータファイル形式の設定を行います。

ビットレート：

[CBR、VBR]

ビデオデータ量をほぼ一定に保つ場合はCBRを選択し、平均のビットレートを設定します。ビデオデータ量の変動を許容する場合はVBRを選択し、ビットレートの上限を設定します。

GOPパターン：

マニュアルを選択すると、[ピクチャ枚数]、[周期]を設定することができます。

[ピクチャ枚数]

ひとつのGOPに含まれるフレームの数を設定します。

[周期]

ひとつのGOPに含まれるIフレームとPフレームの数を設定します。

[画像サイズ]

録画データを記録するときの、1 画面あたりのピクセル数を設定します。

[アスペクト比]

録画データのアスペクト比を選択します。映像のアスペクト比に合わせてください。

[スタンダード]
テレビジョン方式の設定です。
[NTSC]のみ選択できます。

GOP オプション：（後記ポイント参照）

[GOP 完結]
通常は使用しません。エンコードしたMPEGファイルに何らかの処理を行う場合に選択します。

GOPオプション
当社製MpegCraft LEなどで編集する場合、GOPオプションにチェックを入れることを推奨します。

■[オーディオ] ー HW-MPEG設定の詳細 ー (MTU) MTUシリーズ

- この項目は、[HW-MPEG設定(MTU)]の[画質]で[お好み1～5]を選択した場合に、設定することができます。
- [HW-MPEG設定(MTU)]で設定した内容により、設定可能な項目が異なります。

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」166ページを参照してください。

音質：

[サンプリングレート]
32KHz、44.1kHz、48kHzから選択します。

[オーディオビットレート]
圧縮比率を設定します。

形式：

録画データの音声の圧縮形式を設定します。Dolby Digitalアップグレード（オプション）を行うと、「Dolby Digital」が選択できるようになります（後記ポイント参照）。

チャネル：

[ステレオ]

LチャネルとRチャネルの信号にある程度の相関がある場合に選択します。音楽などのステレオ信号をエンコードする場合に選択します。

[デュアル]

LチャネルとRチャネルの信号に相関がほとんどない場合、各チャネルに全く別の音を記録する場合などに選択します。

[モノラル]

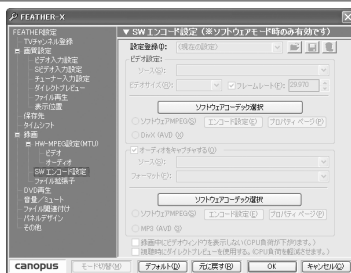
1チャネルだけのオーディオ信号を記録します。Lチャネルの入力端子に入力された信号だけが記録されます。

Dolby Digital（AC-3オーディオ圧縮）

- MTUシリーズのアップグレードキットをお持ちの方は、AC-3（Dolby Digital Consumer Encoder（AC-3）準拠）オーディオ圧縮（MPEG2エンコード）に対応することができます。
- アップグレードキットをご使用される場合は、[スタート]メニューから[すべてのプログラム（Windows2000環境ではプログラム）]→[Canopus FEATHER]と進んで[MTU Dolby Digital Upgrade Setup]をクリックします（引き続き画面の指示にしたがってアップグレードを行ってください）。

■[SWエンコード設定]

MTUシリーズをご使用の場合は設定できません。

［ソフトウェアコーデック選択］ボタンをクリックし、使用に関する注意ダイアログに同意すると、各種の設定が行えるようになります。

・当社が各製品に付属して提供しているMPEGコーデック以外を使用した動作に関しては、サポート対象外となります。
・SWエンコードでのDivXによるキャプチャは、サポート対象外となります。

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」166ページを参照してください。

[設定登録]

SWエンコードの設定をプリセットとして登録します。

ビデオ設定：
[ソース]、[ビデオサイズ]、[フレームレート]

映像の入力元、解像度、フレームレートを設定します。

[AVIコーデック]/[ソフトウェアMPEG]/[DivX（AVI）]

DivX(AVI)を選択し、[エンコード設定]ボタンをクリックすると詳細設定を行えます(次項「●エンコード設定」参照)。

オーディオをキャプチャする：[ソース]、[フォーマット]

オーディオをキャプチャします。
音声の入力元、音声フォーマットを設定できます。

[AVIコーデック]/[ソフトウェアMPEG]/[MP3（AVI）]

オーディオのSWエンコード形式を設定します。

[録画中にビデオウィンドウを表示しない]

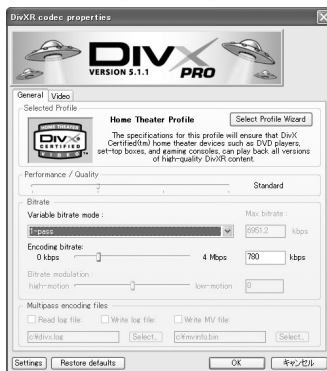
オーバーレイを非表示にし、CPU の負荷を軽減させます。

[視聴時にダイレクトプレビューを使用する]

QSTV10、QSTV15ではダイレクトプレビューを使用し、CPU の負荷を軽減させます。

●エンコード設定

ビデオのエンコード設定で「DivX(AVI)」を選び、[エンコード設定]をクリックすると、次のようなダイアログが表示されます。

[General]タブ

Selected　Profile

[Select Profile Wizard]で選択されたプロファイルが表示されます。
選択するプロファイルによって使用可能なビットレートの範囲が変わります。

Performance / Quality

変換速度と画質を設定します。スライダが右に行くほど、変換速度より画質が優先されます。

Bitrate

[Variable bitrate mode]
ビットレート方式を設定します。
[Encoding bitrate]
動画のビットレートを設定します。
[Bitrate moduration]
ソースデータによってビットレートを調節することができます。
([Variable bitrate mode]でMultipass, nth passを選択した場合のみ設定できます。)

Multipass encoding files

「MV file」をチェックすると、映像の動きを記録し、マルチパスエンコード時に効率的に処理が行われます。
「1 st pass」時と「nth pass」時では処理が異なります。
※リアルタイムキャプチャ時は、チェックを入れないでください。

[Select Profile]で[Disable Profile]にチェックを入れると、Bitrateで1-pass quality-basedが選択できるようになります。1-pass quality-basedではQuantizerで画質を設定します。

DivXで変換を行なう際、「Feedback Window」というウィンドウが連続で表示され、非常に負荷がかかる場合があります。
「Feedback Window」を非表示にするには、[Settings]ボタンで[Settings]ダイアログを表示させ、[Disable the feedback window]にチェックを入れてください。

[Video]タブ

Video Settings

[Psychovisual Enhancements]
ソースデータのエフェクトを補完する場合に、「Fast」または「Slow」から選択します。
[Enable Crop]
出力する動画のカットを行う場合に数値を指定します。
[Enable Resize]
元のソースデータから解像度、画質を変更して出力する場合に設定を行います。

Advanced

[Pre Processing Source]
チェックを入れると、スライダを移動させることによりソースデータのノイズやゴーストを前処理することができます。
[Scene change threshold]
キーフレームの挿入間隔をスライダの移動または数値を入力することにより指定します。
[Source Interlace]
ソースデータのインターレース解除に関する設定を行います。
[Max Keyframe interval]
キーフレームの間隔を入力します。

■[SW-MPEG設定]

MTUシリーズをご使用の場合は設定できません。ソフトウェアエンコーダ製品のみ以下の「MPEG」関係の設定画面が出てきます。

この項目は、[SWエンコード設定]の[ビデオ設定:]で[ソフトウェアMPEG]を選択した場合に設定することができます。

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」166ページを参照してください。

録画デバイス:

現在選択されているデバイスを表示します。

ビデオ形式:

[MPEG1]

ビデオをMPEG1形式でエンコードしたい場合に選択します。

[MPEG2]

ビデオをMPEG2形式でエンコードしたい場合に選択します。

[Video CD]

ビデオCDを作成したい場合に選択します(MPEG1の中でも、特にビデオCDの規格に準拠した形式でエンコードします)。

[Super Video CD]

ビデオCDの上位互換機種として制定された規格です。再生可能なプレイヤーは限られています(USTV-1では設定できません)。

ストリーム:

[プログラムストリーム]

オーディオ信号とビデオ信号のそれぞれをエンコードし、その結果を多重化して1つのファイルに記録します。

画質

[高画質2]

画像サイズ640×480、ビットレート5Mbpsで録画します。

[高画質1]

画像サイズ320x480、ビットレート4Mbpsで録画します。

※USTV-1では、画像サイズ640×480、ビットレート4Mbpsで録画します。

[普通]

画像サイズ320x240、ビットレート3Mbpsで録画します。

[長時間]

画像サイズ320x240、ビットレート2Mbpsで録画します。

[マニュアル設定]

ビデオ、オーディオの設定をカスタマイズすることができます。[マニュアル設定]を選択すると、[詳細]ボタンをクリックすることが可能になり、[ビデオ]、[オーディオ]の設定画面で入力ができるようになります。

※MPEGに関する知識が必要です。通常は[高画質2]、[高画質1]、[普通]、[長時間]から選択してください。

[MTPlayer MP20-HDDでの再生時に問題が生じる場合、この項目をチェックしてください。]

当社製MTPlayerで再生したときに、問題がある場合はチェックを入れてください。

■[ビデオ] ― SW-MPEG設定の詳細 ―

- この項目は、[SW-MPEG設定]の[画質]で[マニュアル設定]を選択した場合に、設定することができます。
- [SW-MPEG設定]の内容により、設定可能な項目が異なります。

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」166ページを参照してください。

プロファイルとレベル：

MPEG2のプロファイルとレベルを設定します。通常は[MP@ML]選択します。

ビットレート：

ビデオデータのビット量を指定します。

GOPパターン：

一般的なMPEGの機能で録画する場合はIBBPを、すべての録画データのフレームをIピクチャとして記録する場合はI Frameを選択します。通常は、IBBPを選択します。

[動きベクター]

動きベクターを検出する範囲を指定します。大きな値を指定するほど、動きの激しいシーンでの品質が向上しますがCPUへの負荷が高くなります。

[フレームレート]

1秒間に描画するフレーム数を指定します。

[画像サイズ]

録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。

[アスペクト比]

録画データに記録するアスペクト比を選択します。
映像のアスペクト比に合わせてください。

[スタンダード]

テレビ方式の設定です。
[NTSC]のみ選択できます。

■[オーディオ] － SW-MPEG設定の詳細 －

・この項目は、[SW-MPEG設定]の[画質]で[マニュアル設定]を選択した場合に、設定することができます。
・[SW-MPEG設定]の内容により、設定可能な項目が異なります。

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」166ページを参照してください。

音質：

[サンプリングレート]

32KHz、44.1kHz、48kHzから選択します。

[オーディオビットレート]

圧縮比率を設定します。

形式：

[Layer 2]

MPEGオーディオのレイヤー２規格に基づいて、オーディオ信号を圧縮します。

チャネル：

[ステレオ]

Lチャネルと Rチャネルの信号にある程度の相関がある場合に選択します。音楽などのステレオ信号をエンコードする場合に選択します。

[ジョイント]

Lチャネルと Rチャネルの信号の相関が強い場合に選択します。

[デュアル]

Lチャネルと Rチャネルの信号に相関がほとんどない場合、各チャネルに全く別の音を記録する場合などに選択します。

[モノラル]

1チャネルだけのオーディオ信号を記録します。Lチャネルの入力端子に入力された信号だけが記録されます。

品質：

オーディオのエンコードにおける品質を指定します。高音質を指定するほどCPUへの負荷が高くなります。

■[ファイル拡張子]

MPEG1：

MPEG1のシステムストリーム、エレメンタリストリーム（ビデオ、オーディオ）の拡張子を設定します。

MPEG2：

MPEG2のプログラムストリーム、エレメンタリストリーム（ビデオ、オーディオ）の拡張子を設定します。

DVD再生の設定をする

■[DVD再生]

[DVDナビゲータ選択]

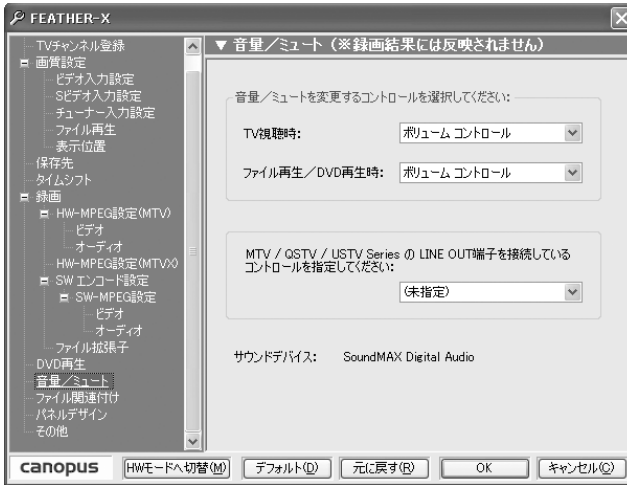
InterVideo DVDナビゲータ、またはMicrosoft DVDナビゲータから選択します。

[DVDドライブ]

DVD再生時に優先的にDVDボリュームを検索するドライブを指定します。

[DVD Videoの自動再生を有効にする。]

DVDモードへの切換、またはFEATHER2004本体のイジェクト/クローズボタンを使用した場合に自動的に再生を開始します。

音量の設定をする

■[音量／ミュート]

音量/ミュートを変更するコントロール選択してください：[TV視聴時]、[ファイル再生/DVD再生時]

ボリュームコントロール、WAVE、SW シンセサイザ、CDプレイヤー、マイク、補助入力、ライン入力、電話から選択します。

※お使いのサウンドカードによって選択できる項目が異なります。

MTV/QSTV/USTV SeriesのLINE OUT端子を接続しているコントロールを指定してください：

WAVE、SW シンセサイザ、CDプレイヤー、マイク、補助入力、ライン入力、電話から選択します。

※お使いのサウンドカードによって選択できる項目が異なります。

パネルデザインの設定をする

■[パネルデザイン]

デザイン選択：

[TV視聴時]、[ファイル再生]、[DVD再生]

パネルデザインを選択します。

F2004　Small　Special-USTV　Special-X　Special-X for U（MTUシリーズ）　White　Woody

FineStick

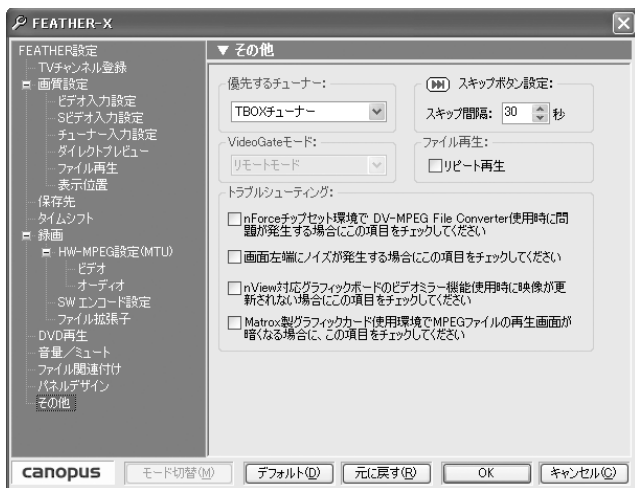
WoodStick

そのほかの設定について

■[ファイル関連付け]

[FEATHERと関連付けるファイルの拡張子を選択してください。]

FEATHER2004と関連付けるファイルの拡張子を選択します。

■[その他]

[優先するチューナー]

TBOXをチューナー内蔵のMTVシリーズ(MTV1200)にも接続している場合、どちらのチューナーを優先させるかを選択します。

[スキップボタン設定]

タイムシフト、追っかけ再生、ファイル再生時のスキップ間隔を設定します。

[VideoGateモード]

VideoGate 1000とCRMシリーズリモコンがある場合に設定することができます。

[リモートモード]

VideoGate 1000からテレビ出力を行います。テレビ画面上に表示されるOSDメニューを見て、CRMシリーズリモコンで操作をすることができます(「OSDメニュー」72ページ参照)。

[従来モード]

CRMシリーズリモコンでFEATHER2004を操作することができます。
テレビ出力(OSDメニューはありません)を行います。

[ファイル再生]

ファイル再生時にリピート再生を行います。

[トラブルシューティング]

必要に応じてチェックしてください。

第４章
ファイルを変換しよう

この章では、DVファイルをMPEGファイルに変換するソフトウェア「ＤＶ－ＭＰＥＧ　Ｆｉｌｅ Converter」、およびMPEGファイルの変換を行うソフトウェア「X-TransCoder」の操作について説明します。

※「DV-MPEG File Converter」は、ハードウェアエンコードタイプのMTVシリーズのみご使用になれます。

4-1 DV-MPEG File Converterを使う前に

ここでは、DV-MPEG File Converterの起動方法および各部の機能について説明します。

「DV-MPEG File Converter」は、ハードウェアエンコードタイプのMTVシリーズでのみご使用になれます。

DV-MPEG File Converterとは

DV-MPEG File Converterは、DVファイルからMPEG2/1ファイルへのファイルコンバーターで、MTVシリーズボード上のハードウェアMPEGエンコーダを使用して高速変換を行います。次の形式のAVIファイルをMPEG2/1ファイルに変換できます。

MPEG2/1ファイルに変換できるAVIファイルの形式

- Canopus DV(参照AVIも変換することができます。参照AVIではない、2GBを超えるファイルは変換できません。)
- Canopus Motion-JPEG(720×480画素、29.97フレーム/秒のファイルのみ。Canopus Motion-JPEG再生ドライバが必要です。)
- Microsoft Type1 DV
- Microsoft Type2 DV

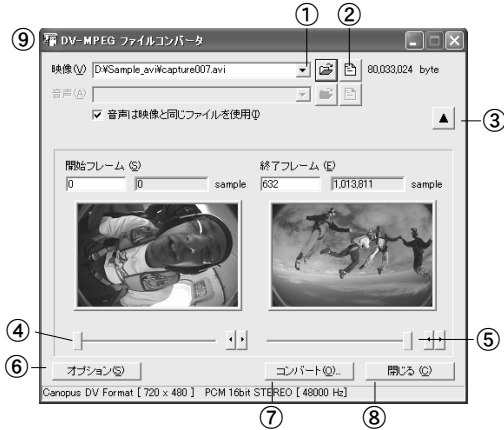
DV-MPEG File Converterを起動する

DV-MPEG File Converterの起動方法について説明します。

[スタート]メニューから[すべてのプログラム]（Windows 2000環境では[プログラム]）の[Canopus MTV Series]へ進み、[DV-MPEG File Converter]を選択します。

→ 「DV-MPEG File Converter」が起動します。

■各部の機能

DV-MPEG File Converterを起動すると以下のウィンドウが表示されます。

ウィンドウは[▼]ボタンをクリックした状態のものです。画面は説明用ですので実際に表示されるウィンドウとは異なります。

① 変換元ファイルを指定します。

エクスプローラからのドラッグ＆ドロップでも入力できます。

② 変換元ファイルのプレビューを行うためのメニューを表示します。

お使いのパソコン環境によりメニューの表示内容は異なります。

③ [▼]ボタンをクリックすると開始フレームおよび終了フレームを指定するためのウィンドウが拡張表示されます。[▲]ボタンをクリックすると元のウィンドウに戻ります。

④ 数値を直接入力するか、スライダを使用して開始フレームを指定します。

⑤ 数値を直接入力するか、スライダを使用して終了フレームを指定します。

⑥ オプション設定ウィンドウを表示します。

⑦ ファイル変換を行うためのウイザードを開始します。

⑧ DV-MPEG File Converterを終了します。

⑨ 複数ファイルをコンバートする場合の[ファイルリストを使用する]選択時に指定します。

開始フレームおよび終了フレームのプレビュー画面上でダブルクリックした場合、フレームリストを表示します。 ◀▶ ボタンをクリックすると表示するフレームを前後させることができます。また、リスト上にある画面をクリックすることで、フレームの指定を行うことができます。

開始フレームおよび終了フレームのプレビュー画面上で右クリックした場合、該当フレームのキャプチャを行えます。[ビットマップのコピー] を選択すると、該当するフレームの画面キャプチャがクリップボードに転送されます。[ビットマップの保存] を選択すると、該当するフレームの画面キャプチャをファイルとして保存することができます。また、プレビュー画面上で（左）ドラッグし、デスクトップ上でドロップすることでも該当フレームの画面キャプチャをファイルとして保存できます（ただしこの場合、ファイル名は自動的に割り当てられます）。
[ビットマップの表示]を選択すると、[BitmapView]画面に静止画が表示されます。

4-2 MPEGファイルに変換する

MPEGファイルに変換する

ファイル変換の手順について説明します。

1

[映像]もしくは[音声]フィールドに変換元のファイル名を直接入力するか(パス名も含む)、[ファイルを開く]ボタンをクリックしファイル名を指定する、またはエクスプローラから直接ファイルをドラッグ＆ドロップしファイルを指定します。

音声があらかじめキャプチャされたDV形式AVIのファイル変換を行う場合は、[音声は映像と同じファイルを使用]にチェックをつけてください。変換元のファイルのプレビューを行う場合は、ボタンをクリックしてください。

2

ファイルの一部分だけを変換する場合は、[▼]ボタンをクリックし、拡張表示の状態にします。スライダを使用し、開始フレームおよび終了フレームを指定し、[コンバート]をクリックします。ファイル全体をコンバートする場合は、ファイル選択後、[コンバート]をクリックし、手順５に進んでください。

[▲] ボタンをクリックすると手順１の画面に戻ります。

3 変換時の設定を行う場合は、[オプション]をクリックし、設定後[OK]をクリックします。

●[フィルタ]タブ

[垂直フィルタ]

動きが少ない画像に対して、ちらつきを抑えるフィルタです。設定値が[100]の場合は、プログレッシブ表示と同等の状態になります。
垂直フィルタを使用する場合は、チェックを付けます。チェックを付けると[強さ]がアクティブになり、設定できるようになります。

[強さ]

フィルタのかかり具合をスライダを使用して調整します。

[マトリックスフィルタ]

動きが激しい画像に対して、ざわつきを抑えるフィルタです。
マトリックスフィルタを使用する場合は、チェックを付けます。チェックを付けると[種類]がアクティブになり、プルダウンメニューから選択できるようになります。

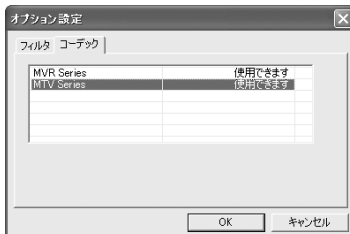
[種類]

[▼]ボタンをクリックし、プルダウンメニューからプリセットされている設定を選択します。

[プレビュー(開始フレーム/終了フレーム)]

設定したフィルタのトライアルプレビューを行います。[開始フレーム]もしくは[終了フレーム]のどちらか効果を確認したい方を選択すると、[BitmapView]画面が表示されます。フィルタ効果の参考にしてください(表示された静止画は実際に変換されたデータではなく、設定値を演算したものです)。

●[コーデック]タブ

変換で使用するコーデックを選択します。このタブおよび一覧表は、DV-MPEG File Converterで使用可能なコーデックが複数存在しない場合には表示されません。

4 **複数のファイルを連続してコンバートする場合は、DV-MPEG File Converterのタイトルバーの右クリックメニューから、[ファイルリストを使用する]を選択します。**

→[変換ファイルリスト]ダイアログが表示されます。

→[コンバート]ボタンが[追加]ボタンに変わります。

変換するファイルを、[変換ファイルリスト]ダイアログにドラッグ＆ドロップし、[CONV]ボタンをクリックします。

IN点、OUT点などの表示幅はマウスでクリックすることで調整できます（ダブルクリックするとデフォルトの幅に戻ります）。

●[変換ファイルリスト]画面

[Close]
ファイルリストを閉じます。終了時には登録されている情報は破棄されます。

[Del]
ファイルリスト上の選択されているアイテムを破棄します。

[Clear]
ファイルリストのアイテムをすべて破棄します。

[Play]
変換後のファイルを再生して確認します。

[CONV]
ファイルリストのアイテムを順番に変換します。変換が正常に終了した場合、アイコンがOKになります。失敗した場合にはNGになります。

[アイテム上での右クリック]
選択しているアイテムだけを変換します。

[アイテム上でのダブルクリック]
選択しているアイテムをメインの画面上で表示します。メインの画面上で 開始フレーム、終了フレームを変更した場合、[追加]ボタンで再度登録する必要があります。

エクスプローラから複数のファイルをドラッグ＆ドロップでリストに追加することができます。メインの画面に複数のファイルをドラッグ＆ドロップした場合は、自動的に[変換ファイルリスト]が起動します。

5

ファイル変換後に作成されるMPEGファイル形式を指定し、[次へ]をクリックします。

[MPEG1 システム ストリーム]

映像と音声を多重化して１つのファイルに記録します。

[MPEG1 エレメンタリ ストリーム]

ビデオとオーディオをエンコードしてそれぞれ別個のファイルとして同時に記録します。[映像]もしくは[音声]を指定することで映像または音声を単独でエンコードできます。[Waveファイルとして保存]にチェックを入れた場合は、映像をエンコードし、音声は非圧縮のPCMデータとしてそれぞれ別個のファイルに同時に記録できます。

[MPEG2 プログラム ストリーム]

ビデオとオーディオを多重化して１つのファイルに記録します。

[MPEG2 エレメンタリ ストリーム]

ビデオとオーディオをエンコードしてそれぞれ別個のファイルとして同時に記録します。[映像]もしくは[音声]を指定することで映像または音声を単独でエンコードできます。[Waveファイルとして保存]にチェックを入れた場合は、映像をエンコードし、音声は非圧縮のPCMデータとしてそれぞれ別個のファイルに同時に記録できます。

[Video CD]

Video CD形式に準拠したMPEG1ファイルを作成します。音声のサンプリングレートが44100Hzで記録されていないデータの場合、この項目は選択できません。

[DVD-MovieAlbumインポート情報を作成する]

DVD-MovieAlbumインポート情報を出力します。音声のサンプリングレートが48000Hzの場合に選択できます(DVD-MovieAlbumがインストールされている場合のみ使用可能)。

ビデオデータに関する設定を行い、[次へ]をクリックします。

● Video CD を選択した場合

変換するファイル形式により表示ウィンドウは異なります。
Video CDを選択した場合、手順7に記載されているオーディオに関する設定をここで行います。

[ビットレート]
ビデオデータのビットレートと符号化形式を設定します。ビデオビットレートは400bps単位で設定します。400bps単位で指定しなかった場合は自動的に400bps単位の設定値に変更されます。ビットレートを高くすると画質は良くなりますが、ファイルサイズが大きくなります。ビデオデータの符号化形式はCBR、VBRのいずれかに設定します。VBRを選択した時のみ、最大ビットレート(400bps単位)も同時に設定することができます。

[CBR]/[VBR]
GOPパターンをI Flame(Iピクチャのみで構成されるGOP)、IBBP(I/B/Pの３つのピクチャから構成されるGOP)のいずれかに設定し、以下のパラメータを設定することができます。

[GOPパターン]
[ピクチャ枚数]
GOP内に含まれるピクチャ枚数を1～30の範囲で設定します。I Flame選択時にはピクチャ枚数は1に固定されます。

[周期]
IもしくはPピクチャが現れる周期を1～3の範囲で設定します。I Flame選択時には周期は1に固定されます。

[GOP完結]
この設定を行うと、1つのGOP分のビデオデータとそれに付随するオーディオデータを格納するパックの集まりを1つの単位とし、その中で1つのGOPが完結します。作成するファイルの種類がMPEG1の場合は表示されません。

[Closed GOP]
GOP内の画像が他のGOPから独立して再生可能なことを示すClosed GOPフラグを設定します。

[プロファイルとレベル]
プロファイルとレベルを設定します。作成するファイルの種類がMPEG1の場合は表示されません。

[画像サイズ]
キャプチャファイルの画像サイズを設定します。ファイル形式としてMPEG1を選択した場合は、コンボボックスは表示されません。

オーディオデータに関する設定を行い、[次へ]をクリックします。

変換するファイル形式により表示ウィンドウは異なります。
Video CD形式を選択した場合、オーディオに関する設定を行います。

[サンプリングレート]

オーディオ信号のサンプリングレートが表示されます。

[ビットレート]

オーディオデータのビットレートを設定します。ビットレートを高くすると音質は良くなりますが、ファイルのサイズが大きくなります。

[形式]

オーディオデータの形式を設定します。「Layer2」以外の形式は選択できません。

[チャネル]

オーディオチャネルの種類を設定します。

[エンファシス]

エンファシスエンコードを行う場合に設定します。

[プロテクション]

CRCエラーの検出が行えるファイルを作成する場合にチェックをつけます。

[オリジナル]

オリジナルビットをつけたファイルを作成する場合にチェックをつけます。

[コピーライト]

著作権情報をつけたファイルを作成する場合にチェックをつけます。

8 データの出力に関する設定を行います。

変換するファイル形式により表示ウィンドウは異なります。

[映像ファイル]

変換するファイル形式がMPEG1 エレメンタリストリームもしくはMPEG2エレメンタリストリームの場合は、変換後に作成される映像ファイル名(パス名も含む)をフィールドにキー入力できます。[ドライブ参照]および[ファイル参照]のボタンが有効になります。

[音声ファイル]

変換するファイル形式がMPEG1 エレメンタリストリームもしくはMPEG2エレメンタリストリームの場合は、変換後に作成される音声ファイル名(パス名も含む)をフィールドにキー入力できます。[ドライブ参照]および[ファイル参照]のボタンが有効になります。

[MPEGファイル]

変換するファイル形式がMPEG1 システムストリーム、MPEG2 プログラムストリームもしくはVideo CDの場合は、変換後に作成されるファイル名(パス名も含む)をフィールドにキー入力できます。[ドライブ参照]および[フォルダ参照]のボタンが有効になります。

[出力フォルダを指定する]

[出力フォルダを指定する]にチェックをつけた場合、変換後のファイルを任意のフォルダ内に作成することができます。出力するフォルダを指定してください。この場合、アクティブ状態のフィールドにはファイル名のみ(ファイル名のキー入力も可能)が表示されます。[ドライブ参照]および[フォルダ参照]のボタンが有効になります。

[プレビュー]

変換作業中にプレビュー画面の表示を行う場合は、チェックをつけてください。

複数ファイル変換時には出力フォルダのみの指定となり、ファイル名の設定は行えません。自動的にソースファイル名の拡張子だけ変更したファイルが作成されます。また、同名のファイルが存在する場合は、無条件に上書きを行います。

[コンバート]をクリックします。

→ ファイルの変換を開始します。

10 ファイルのコンバートが終了しました。

※ コンバートされたファイルを再生する場合は、[再生]ボタンをクリックします。

※ DV-MPEG File Converterを終了する場合は、[完了]ボタンをクリックします。

複数ファイル変換時には、変換後のファイル名およびファイルサイズは表示されません。変換後のファイル再生は、この終了ウィンドウからではなく、[変換ファイルリスト]から [Play]を選択してください。

以上でファイルの変換作業は完了です。

4-3 MPEGファイルを高圧縮で変換する

DivX形式、WMV形式、SD-Video形式

高画質MPEG2で録画した映像を、コンパクトなSD-Videoフォーマットに自動変換することができます。SDメモリカードに移して対応する携帯電話やモバイル機器で録画した映像を楽しむことができます。

DivX形式、WMV形式、SD-Video形式は、画質を高品位に保ちながら動画をコンパクトに圧縮する形式です。これらの形式にファイルを変換するとディスクの保存スペースを節約できます。

X-TransCoderは、高圧縮フォーマット(DivX形式、WMV形式、SD-Video形式)とFEATHER2004との連携ユーティリティソフトです。

・X-TransCoderをご使用になるには、当社製X Packシリーズが必要です。
・X-TransCoderに対応する各種のフォーマットは、X Packシリーズの組み合わせで異なります(下図参照)。

	X Pack Plus Kit	X Pack	X Pack 2
X Pack Plus Kit	SD-Video	DivX、 SD-Video	DivX(2pass)、 WMV(2pass)、 SD-Video
X Pack	DivX、 SD-Video	DivX	DivX(2pass)、 WMV(2pass)
X Pack 2	DivX(2pass)、 WMV(2pass)、 SD-Video	DivX(2pass)、 WMV(2pass)	DivX(2pass)、 WMV(2pass)

X-TransCoderを起動する

X-TransCoderを使用して、録画したテレビ番組をDivX形式に変換します。

1 FEATHER2004のメニューリストから[X-TransCoderを表示する]をクリックします。

2 X-TransCoderの[ファイルを追加]ボタンをクリックし、[ファイルを開く]画面から変換するファイルを選択します。

3 [コーデック設定]ボタンから変換に必要な設定を行います（「■[コーデックの詳細設定]画面」155ページ参照）。

4 [変換開始]ボタンをクリックします。

※変換中に[変換中止]ボタンをクリックすると、ファイル変換の処理を中止します。変換を中止するまでのファイルが作成されます。

5 変換完了後、[閉じる]ボタンをクリックします。

→X-TransCoderを終了します。

X-TransCoderで、ファイルリストのファイルを選んで右クリックすると、次のようなメニューが表示されます。

①	ファイルを追加する(A)	Ctrl-F
②	リストから削除する(D)	DEL
③	コーデックの設定を行う(S)	Ctrl-E
④	出力先を変更する(F)	F2
⑤	出力ファイル名に情報を付加する(I)	▸
⑥	出力先のフォルダを開く(O)	Ctrl-O
⑦	出力ファイルを再生する(P)	Ctrl-P
⑧	プロパティを開く(R)	Alt-Enter

①ファイルを追加する
ファイルリストに変換するファイルを追加します。

②リストから削除する
ファイルリストで選んだファイルを削除します。

③コーデックの設定を行う
[コーデック設定]画面が表示され、変換の設定を行います。

④出力先を変更する。
[名前を付けて保存]画面が表示されます。出力先を指定します。

⑤出力ファイル名に情報を付加する
付加したい情報にチェックを入れます。

⑥出力先のフォルダを開く
ファイルが出力されるフォルダを開きます。

⑦出力ファイルを再生する
出力されたファイルを再生します。

⑧プロパティを開く
ファイルリストで選んだファイルのプロパティ画面が表示されます。

録画中同時に変換を行う＜追っかけ変換(Background Transcode)＞

ファイルの圧縮変換はテレビ番組を録画した後に行うこともできますが、録画しているとき、同時にファイルの圧縮変換を行うこともできます（追っかけ変換）。変換時間を省略できるので、その他の作業をスムーズに進めることができます。
※QSTV10、QSTV15、USTV-1、MTV800では、「追っかけ変換」機能をご使用になれません。

録画と変換を同時に行えるのは、ハードウェアエンコード時のみです。ただし、[X] ボタンはソフトウェアエンコード時でも使用できます。

ハードウェアモードに切り替え、FEATHER2004の[X]ボタンをクリックします。

→ X-TransCoderが起動し、変換を開始します。

※ X-TransCoderは、タスクバーに最小化されています。

※ CRMシリーズリモコンをご使用の場合は、[Shift]+[REC]キーを押します。

※ 録画中の変換を中止する場合には、再度FEATHER2004の[X]ボタンをクリックします。変換中止を確認するダイアログが表示されます。

変換を中止する場合は[中止]を、そのまま変換を続ける場合は[継続]をクリックします。

録画中に変換を中止すると、中止した時点までのファイルが作成されます。

2

[停止]ボタンをクリックします。

→ 録画を終了します。

→ X-TransCoder が終了し、MEDIA LIBRARYのファイルリストには、変換元のファイル（MPEGファイル）と変換後のファイルが作成されます。

X-TransCoder画面

トランスコードファイルリスト

入力ファイル名やビデオ・オーディオのコーデック設定、出力ファイル、コーデックの状態が表示されます。

トランスコード設定

選択されているファイルのトランスコード設定が表示されます。

トランスコード情報

変換中のファイルの映像の長さや予測される所要時間などトランスコード情報が表示されます。

[変換開始]ボタン

トランスコードを開始します。

[一時停止]ボタン

トランスコードを一時停止します。

[変換中止]ボタン

トランスコードを中止します。

[ファイルを追加]ボタン

トランスコードファイルリストにファイルを追加します。

[コーデック設定]ボタン

[コーデック設定]画面を表示します（154ページ参照）。

[オプション設定]ボタン

[オプション設定]画面を表示します（次項参照）。

■[オプション設定]画面

[全般]タブ

タスクの優先度：

トランスコードの優先度を選択します。

[変換終了後、Windowsの状態を変更する]

トランスコード終了後のWindowsの状態を選択します。

[変換中は電源状態の移行を許可しない]

変換中は省電力モードに移行しません。

[ファイル/保存先]タブ

変換後ファイルの保存先：

「任意のフォルダ」を選択した場合は、[参照]ボタンから保存フォルダを指定します。

[変換後のファイル名に情報を付加する。]

付加したい情報にチェックを入れます。

[コーデック]タブ

「■[コーデック設定]画面」154ページを参照してください。

[FEATHER連携]タブ

[FEATHERでの録画時に自動でトランスコードを行う]

録画と併行してトランスコードを行う場合にチェックを入れます(QSTV10、QSTV15、USTV-1、MTV800では設定できません)。

[トランスコードファイルリストに追加するタイミング]

録画時に自動でトランスコードを行う場合、ファイルをトランスコードファイルリストに追加する時期を選択します。

[FEATHERが録画を行っている間は、トランスコードを行わない。]

録画時にトランスコードを行わない場合にチェックを入れます。

[FEATHERが再生中の場合は、トランスコードを行わない。]

FEATHERが再生中、トランスコードを行わない場合にチェックを入れます。

■ [コーデック設定]画面

ビデオ・オーディオのコーデックを選択します。
選択したコーデックにより[詳細設定]ボタンで表示される設定項目が異なります。

[プリセット]

選択したコーデックに応じてプリセットを選択します。

[詳細設定]ボタン

[コーデックの詳細設定]画面が表示されます(次項参照)。

[標準設定として記憶する]

設定した内容を標準設定をして記憶させておくことができます。

「任意のコーデックを選択する」で設定して行なわれた変換は、サポート対象外となります。

［コーデックの詳細設定］画面

■[DivX+MP3]を選択した場合

[DivX設定]タブ

[プロファイルを使用する]

チェックを入れると、用途に応じたエンコードモードを選択することができます。

[方式]

エンコード方式を選択します。

[平均ビットレート]

エンコード時の平均ビットレートをスライダの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。

[品質]

エンコードを行う際の画質をスライダの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。

[ビットレート変調]

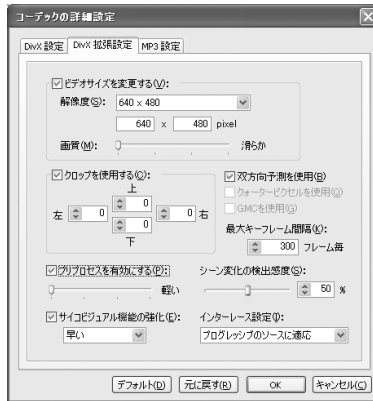
エンコード方式で可変ビットレート(平均)2パスを選択した場合、ビットレートの変調をスライダの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。

[優先度]

画質、速度の優先度をスライダの移動により指定します。

[高度な設定を使用する]

チェックを入れると、[DivX拡張設定]タブが表示されます(次項参照)。

[DivX拡張設定]タブ

[ビデオサイズを変更する]
元のソースデータから解像度、画質を変更して出力します。

[クロップを使用する]
出力する動画のカットを行う場合に数値を指定します。

[双方向予測を使用]、[クォーターピクセルを使用]、[GMCを使用]
圧縮時に使用するDivXのツールです。
使用する場合にはチェックを入れます。

[最大キーフレーム間隔]
キーフレームの間隔を入力します。

[プリプロセスを有効にする]
チェックを入れると、スライダを移動させることによりソースデータのノイズやゴーストを前処理することができます。

[シーン変化の検出感度]
キーフレームの挿入間隔をスライダの移動または数値を入力することにより指定します。

[サイコビジュアル機能の強化]
ソースデータのエフェクトを補完する場合に、「早い」、「遅い」から選択します。

[インターレース設定]
ソースデータのインターレース解除に関する設定を行います。

[MP3設定]タブ

[周波数]

オーディオ信号の標本化周波数を指定します。

[ビットレート]

オーディオ圧縮後のデータ量を１秒あたりのビット量で指定します。

[チャンネル]

録画データのチャネル形式を設定します。

[品質]

オーディオの品質を選択します。

■[Window Media Video/Audio]を選択した場合

[WMV設定]タブ

[方式]

ビデオデータのエンコード方式を選択します。

[コーデック]

コーデックソフトのバージョンを選択します。

[ビットレート]

ビデオデータのビット量をスライダの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。

※方式の選択内容により最大ビットレートの設定ができるものもあります。

[最大ビットレート]

ビットレートの上限値(可変ビットレート時)を入力します。

[品質]

エンコードを行う際の画質をスライダの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。

[高度な設定を使用する。]

チェックを入れると、[WMV拡張設定]タブが表示されます(次項参照)。

[WMV拡張設定]タブ

ビデオサイズ：

元のソースデータから解像度を変更して出力する場合にサイズを指定します。

[フレームレート]

ソースデータのフレームレートを変更する場合に、1秒あたりのフレームレートを指定します。

[キーフレーム間隔]

キーフレームを配置する間隔を指定します。

[滑らかさ]

エンコードを行う際の画質をスライダの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。

[優先度]

画質、速度の優先度をスライダの移動により指定します。

[バッファサイズ]

ビデオデータのバッファサイズを設定します。

[WMA 設定]タブ

[方式]

オーディオデータのエンコード方式を選択します。

[コーデック]

コーデックソフトのバージョンを選択します。

[フォーマット]

オーディオデータのフォーマットを選択します。

■[SD-VIDEO(MPEG-4＋G.726)]を選択した場合

[ビデオ/オーディオ]タブ

MPEG-4ビデオ：

[ビットレート]

ビットレートを設定(64～1500Kbps)します。

[解像度]

解像度を設定(128×96、176×144、320×240、352×288)します。

G.726オーディオ

[ビットレート]

ビットレートを設定(16、24、32、40Kbps)します。

[高度な設定を使用する。]

チェックを入れると、[拡張設定]タブが表示されます(次項参照)。

[拡張設定]タブ

MPEG-4ヘッダ：

[MP4S]もしくは、[M4S2]を選択します。[MP4S]を選択すると、[MP4S形式において、Windows環境でのファイル再生時に映像が乱れないようにする。]チェックボックスが設定できるようになります。

[MPEG-4ヘッダ]の初期設定は[M4S2]に設定されています。ファイル再生に問題がある(お使いのファイル再生環境が[M4S2]に対応していない場合があります)場合は、[MP4S]をお試しください。

■[任意のコーデックを選択する]を選択した場合

※ここでの設定で行なわれた変換は、サポート対象外です。

[ビデオ設定]タブ

[コーデック]

変換に使用するビデオコーデックを指定します。

詳細設定：

指定したコーデックにより、エンコード品質やキーフレーム間隔などの詳細設定を行います。

[設定]ボタン

指定したコーデックにより、設定画面が表示されます。

[バージョン情報]ボタン

指定したコーデックにより、バージョン情報が表示されます。

[プロパティ]ボタン

指定したコーデックにより、プロパティ画面が表示されます。

[オーディオ設定]タブ

[コーデック]

変換に使用するオーディオコーデックを指定します。

[形式]

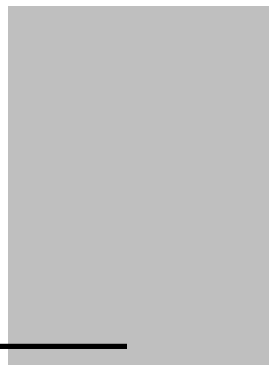
オーディオデータのエンコード形式を選択します。

[設定]ボタン

指定したコーデックにより、設定画面が表示されます。

[プロパティ]ボタン

指定したコーデックにより、プロパティ画面が表示されます。

第 5 章
付録

5-1 各設定項目をもっと詳しく

MPEG1、MPEG2、ストリームについて

FEATHER2004を使用している各製品は、ビデオ信号とオーディオ信号の両方をエンコードする機能があります。ビデオ信号のエンコードは、MPEG1(ISO/IEC 11172-2)またはMPEG2(ISO/IEC 13818-2)のいずれかが選択できます。
オーディオ信号のエンコードはMPEGオーディオ(ISO/IEC 11172-3)規格に基づいています。
オーディオは圧縮せずにPCMデータで記録することもできます。
ビデオやオーディオのそれぞれをエンコードしたデータをエレメンタリストリームと呼びます。
FEATHER2004を使用している各製品は、ビデオまたはオーディオのいずれか、または両方をエンコードし、エレメンタリストリームを記録したファイルを作成することができます。
※MTUシリーズは、エレメンタリストリームに対応していません。
ビデオ信号とオーディオ信号を同時に記録する場合は、それらが1つのデータにまとまっていることが理想です。そのためにFEATHER2004を使用している各製品は、ビデオのエレメンタリストリームとオーディオのエレメンタリストリームとを多重化して、1つのストリームにまとめることができます。多重化の方式は、ビデオがMPEG1の場合にはシステムストリーム(ISO/IEC 11172-1)を、ビデオがMPEG 2の場合にはプログラムストリーム(ISO/IEC 13818-3)を作成できます。

Video CDの作成について

Video CDは、ビデオとオーディオの両方を記録でき、システムストリームの形式で記録されています(Video CDにはMPEG1ビデオが使用されています)。したがって、FEATHER2004を使用している各製品でエンコードしたデータをVideo CDを作成するための映像素材として使用する場合は、システムストリームとしてエンコードします。ただし、Video CDの規格は、一般的なシステムストリームに比べてよりせまい範囲に条件を限定しているので、FEATHER2004を使用している各製品では「Video CD」という選択ボタンを別に設けて、その条件に合ったシステムストリームが出力できるようになっています。こうして出力したファイルを、市販のVideo CD作成ソフトウェアで読み込んでVideo CDを作成することができます。
X Pack 2を使用している各製品でVideo CDを選択した場合、次の形式のファイルが作成されます。

項目	値
MPEGの種類	MPEG1
ビデオ入力サイズ	NTSC　352×240、PAL　352×288
ビデオビットレート	1150000bps
CBR/VBR	CBR
オーディオビットレート	224000bps
サンプリングレート	44100Hz
オーディオレイヤ	レイヤ2
多重化	システムストリーム
パックサイズ	2324バイト
SCRの初期化	0

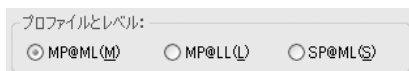
Video CDを作成するときは、上記のデータ形式を読み込むことができるVideo CD作成ソフトウェアをご使用ください。

DVD-Videoの作成について

DVD-Videoは、プログラムストリームの形式で記録されています(DVD-VideoにはMPEG2ビデオが使用されています)。DVDのオーサリングを行うソフトウェアがどのような形式のMPEGデータを必要とするかは、オーサリングソフトウェアによって異なります。エレメンタリストリームを読みこんで、オーサリングソフトウェアの内部でプログラムストリームに多重化する場合が一般的です。その場合、オーディオデータは、MPEGオーディオのエレメンタリストリーム、または非圧縮のPCMデータとして、ビデオとは別のファイルとして読み込まれます。FEATHER2004を使用している各製品は、エンコードしたデータをDVD-Videoを作成するための映像素材として使用できるように、ビデオとオーディオのエレメンタリストリームやオーディオのPCM形式での記録をサポートしています(MTUシリーズは、エレメンタリストリームに対応していません)。

■ビデオ

マニュアル設定時のビデオの各項目の詳細内容について説明します。

プロファイルとレベル

MPEG2の規格はパラメータの許容範囲が非常に広いため、個々の製品がサポートする範囲がまちまちになってしまうと混乱が生じます。そのために、いくつかの段階に分けて目安を設けたものが、プロファイルとレベルです。
当社製品で使用できるのはMP@ML、MP@LL、SP＠MLの３種類で、最も段階が高いのがMP@MLです。スタンダードTV(HDTVではない通常のTVという意味)向けでは、MP@MLが標準です。現在市販されているMPEG2デコーダは、ほとんどがMP@MLに対応していますので、特別な理由がない限り、MPEG2ではMP@MLを使用してください。
MPEG1の場合は、プロファイルやレベルの規定がないので、選択できません。

ビデオビットレート

ビデオデータのビット量を指定します。ビットレートを上げると画質は向上しますが、ファイルサイズは大きくなります。数値は、1秒間の録画に必要なデータサイズ(ビット単位)です。バイト数に換算するには、8で割ってください。例えば8,000,000bps(=8Mbps)と指定すると、1秒あたり8Mビット、すなわち1Mバイトですから、1分間の録画には1Mバイト×60秒=60Mバイト以上の空きディスク容量が必要になります(オーディオも同時に記録する場合は、そのデータ量も加算する必要があります)。
データ量と画質のバランスから、適切であろうと考えられるおおよその目安は、以下の通りです。

●画像サイズが720×480もしくは704×480の場合

6～12Mbpsが適切です。4Mbpsでは少し画質が悪いと感じられ、8Mbps以上にしても、画質にそれほど大きな変化はありません。15MbpsがMPEG2(MP@ML)の規格上の上限値です。

●画像サイズが352×240の場合

MPEG1の場合は、1.5～1.8Mbpsが適切です。1.8MbpsがMPEG1の規格上の上限値です。VideoCDの規格では1.15Mbpsが規格上の上限値となっていますので、VideoCDを選択した場合はその値に固定になります。
MPEG2をこの画像サイズで使用する場合は、2～3Mbpsくらいが適切です。さらにビットレートを上げる(画質を上げたい)場合は、352×480を使用してください。

●サイズが352×480の場合

3～4Mbpsが適切です。
さらにビットレートを上げる(画質を上げたい)場合は、720×480もしくは704×480を使用してください。

ご使用の製品によって、選択できる画像サイズが異なります。

CBR、VBR

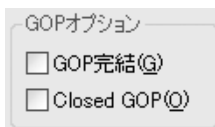
CBRはビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます(CBR:Constant Bit Rate)。
VBRはビデオのデータ量が変動します(VBR:Variable Bit Rate)。
MPEGは、急にシーンが変わったり、細かいパターンが多く含まれる映像などは圧縮しにくい、という性質があります。CBRでは、そのような場面でも一定のデータ量まで圧縮しようとするので、そのような場面の画質が他の場面に比べて低下します。VBRはそれを緩和するため、そのような場面では圧縮結果のデータ量が平均より多くなるようにし、その代わりに他の場面でのデータ量を平均より少なくすることで、トータルのデータ量を増やさずに、各場面の画質をできるだけ均一に保つように考えられた方式です。
そのためにVBRの場合は、ビットレート(目標とする平均のビットレート)と、最大ビットレート(データ量が多くなった部分でも、これを越えない上限値)の2つを設定できるようになっています。

ご使用の製品によって、ビットレートの設定項目は異なります。
※QSTV10、QSTV15およびUSTV-1ではVBRは選択できません。

GOPパターン(IBBP、I Frame)

ビデオ映像は、多くの場合、時間の経過と共に画像が少しずつ変化していきます。
MPEGではそのことを利用し、前後の画像内によく似た部分があれば、その情報を使用することで、すべてのデータをそのまま記録しないで済むように考えられています。したがって、それまでの画像がなければ、次の画像を構成することができません。
ただ、何フレームかに1枚の割合で、前後の画像の情報がなくても、独立して画像が再現できる画像が含まれています。これを Iピクチャと呼びます。
これに対し、時間的に前の画像の情報を利用して少ないデータから再現できるように記録されている画像をPピクチャと呼びます。
また、時間的に前の画像と、時間的に後の画像の両方の情報を利用して、さらに少ないデータから再現できるように記録された画像もあり、これをBピクチャと呼びます。

IBBPを選択すると、上記のしくみを利用して、データ量を少なくしつつ、画質を保つようにします。通常MPEGは、この方式で記録されてます。通常は、IBBPを選択してください。
ただし、IBBPは、前後の画像の情報を使用するため、圧縮データの途中で切り離して他の部分のデータに接続することができないので、記録した画像の編集には向きません。
I frameは、すべてのフレームをIピクチャとして記録します(I frame only)ので、編集が容易にできます。I frame only のMPEGファイルを編集できるソフトウェアをご使用になる場合は、I frameを選択してください。
ただし、I frameは、同程度の画質を維持するためにはIBBPに比べてデータ量を大きくすることが必要になります。
最大ビットレートはMP@MLの規定上、15Mbpsが上限ですので、データ量を大きくして高い画質を得ようとしても、できないことがあります。

GOPオプション

GOP完結　※お使いのモデルによっては設定できません。

これはMPEGの規格として定められた用語ではありませんが、DVDのVOBUと呼ばれる構造に似た考え方を当社で取り入れたものです。
プログラムストリームでは、ビデオやオーディオのデータはパケット化されています。それをパックと呼びます(一般的には複数のパケットの集まりにヘッダを付けたものがパックですが、MTVシリーズの出力データでは、1パックには1パケットだけが入ります)。MTVシリーズの場合、1パックの長さは、Video CDを指定した場合を除いて2048byte固定です。一方、ビデオのデータ量はフレームごとに変動します。従って、無作為にビデオデータをパケットに分割すると、GOPの境界と、パックの境界が必ずしも整合しません。そこで、GOPの境界と、パックの境界を意識的に整合させることにより、データの処理を行いやすくするモードが、GOP完結モードです。ただし、効率の点では少しですが、非完結モードの方が高くなります。
通常の使用の場合には、GOP完結のチェックマークは付けないで使用してください。
エンコードしたMPEGファイルを使用し、何らかの処理を行う場合には、完結モードにチェックを付けて使用すると処理を行い易くなります。
この選択によって、プログラムストリームのデータの構造が次のように変わります。

GOP完結モード(チェックマーク付き)

１つのGOP分のビデオデータおよびそれに付随するオーディオデータを格納するパックの集まりを、1完結単位と呼びます。
1完結単位の中では、1つのGOPが完結しており、他のGOPのデータは入りません。パックの途中でその単位に入るべきデータが完了した場合は、パックの残りの部分にはパディングデータ(データサイズを調整する目的で入れられる情報を持たないデータ)が入れられます。
各完結単位の最初のパックには、システムヘッダが付けられます。

非完結モード(チェックマークなし)

完結単位のような区切りは意識せず、パックの途中でGOPが終了した場合でも、次のGOPのデータがそのパックの残りの部分に続けて入ります。
システムヘッダは、全体のなかで最初のパックにのみ付けられます。

QSTV10、QSTV15およびUSTV-1では、GOPオプションは設定できません。

Closed GOP ※お使いのモデルによっては設定できません。

Iピクチャ以外の各ピクチャは、時間的に前後のピクチャの内容も利用して圧縮を行います(GOPパターンの項参照)。したがって、編集のために、圧縮データを途中で切り離して他の部分のデータに接続することができません。この事は、GOPの境界部分についても同じです。GOPの先頭はIピクチャですが、その後のPピクチャとの間にあるBピクチャは、通常はそのGOPの一つ前の最終のPピクチャを参照します。

Closed GOPにチェックすると、そのような場合、Bピクチャは前方に対する参照を行わないようになります。すなわち、GOP内で情報が完結することになり、GOPの境界でデータを切り離しても、原理上、映像の再現は可能になります。ただし、圧縮効率は低下します。

通常は、チェックマークを外してご使用してください。

Closed GOP構造のMPEGファイルをGOP単位で編集ができるようなソフトウェアをご使用になる場合に使用してください。

画像サイズ

画像サイズ: 720 x 480

ビデオをエンコードする際の1画面を構成するピクセル数です。

720×480は、フルサイズです。

704×480は、民生用プレイヤーで使用されているサイズです。

352×480は、一般にHalf-D1と呼ばれているピクセルサイズです。

352×240は、一般にSIFと呼ばれているピクセルサイズです。MPEG1を選択した場合には、このサイズ以外は選択できません。

ご使用の製品によって、選択できる画像サイズが異なります。

スタンダード(NTSC、PAL)

スタンダード: NTSC(N) PAL(P)

NTSC　:日本、北米などで使用されているテレビジョン方式です。

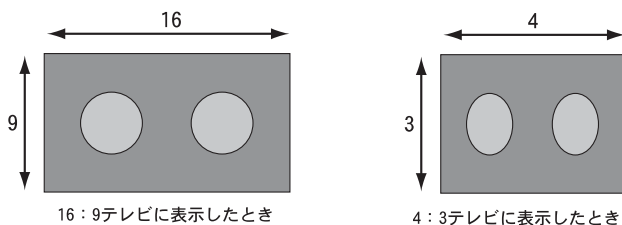
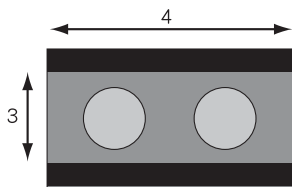
PAL　:ヨーロッパ・中国などで使用されているテレビジョン方式です。

チューナー付きモデルは、NTSCのみ使用できます。

アスペクト比(16：9、4：3)

アスペクト比：　◉4：3　○16：9

現在ビデオ画像のアスペクト比には、4：3または１６：９が使用されています。
どちらのビデオを入力するかを設定してください。
ここでの１６：９のビデオとは、TVに表示した時に、下図のように表示されるビデオ信号のことを指します（２つの円は、真円を撮影したものを表しています）。

16：9テレビに表示したとき　　4：3テレビに表示したとき

４：３のTVに次のように表示されるビデオは、１６：９の映像を4：３TV用に変換したものですので、このようなビデオはビデオ全体としてはあくまで4：３です。

16：9の映像の上下に黒い帯状の部分
を入れて、4：3テレビ用にしたもの

アスペクト比の設定にかかわらず、エンコードされる１ラインあたりのピクセル数は変わりません。あくまで７２０ドットです。エンコード時の動作の違いは、作られるMPEGストリーム内のヘッダーに、１６：９の情報が入るか、4：３の情報が入るかだけです。

■オーディオ

マニュアル設定時のオーディオの各項目の詳細内容について説明します。

サンプリングレート

オーディオ信号の標本化周波数を指定します。32kHz(32000Hz)、44.1kHz(44100Hz)、48kHz(48000Hz)から選択できます。44.1kHzはオーデオCDやVideo CDで採用されている値、48kHzはDVDで採用されている値です。
ビデオがMPEG1の場合には44.1kHz、ビデオがMPEG２の場合には48kHzのオーディオと組み合わせるのが適切です。
32kHzは、特にデータ量を少なくしたい場合に選択してください。

オーディオビットレート

オーディオをMPEGオーディオ規格で圧縮する場合(次項参照)の、圧縮後のデータ量を1秒あたりのビット量で指定します。
音質とデータ量の兼ね合いから、通常192、224、256のいずれかを選択してください。

形式　※設定できる項目はモデルにより異なります。

Layer 2

MPEGオーディオのレイヤ２規格に基づいて、オーディオ信号を圧縮します。チャネル構成については、次項の「チャネル」で指定します。

PCM Stereo

非圧縮のリニアPCMデータを２チャネル記録します。ビデオをエレメンタリストリームとして記録する場合にのみ選択できます。ビデオデータとは別にWAVEファイルを作成します(QTSV10、QTSV15およびUSTV-1では設定できません)。

PCM Mono

非圧縮のリニアPCMデータを1チャネル記録します。ビデオをエレメンタリストリームとして記録する場合にのみ選択できます。ビデオデータとは別にWAVEファイルを作成します。Lチャネルの入力端子に入力された信号だけが記録されます(QTSV10、QTSV15およびUSTV-1では設定できません)。

MTUシリーズをお使いの場合、オプションの『MTU2400 Update kit』(別売)を使用することでDolby Digital出力が可能となります。

チャネル　※USTV-1では設定できません。

チャネル:
- ◉ステレオ(S)
- ○ジョイント(J)
- ○デュアル(U)
- ○モノラル(M)

ステレオ

LチャネルとRチャネルの信号にある程度の相関がある場合に、効率のよいオーディオエンコードを行います。音楽などのステレオ信号をエンコードする場合にご使用ください。
通常の音楽などの信号は、LチャネルとRチャネルの信号が、かなり似ています。その場合には、各チャネルを独立してエンコードするのではなく、似通った部分があるという性質を活用してエンコードした方が、より高品質の圧縮が可能です。この設定では、そのような圧縮を行います。

ジョイントステレオ

LチャネルとRチャネルの信号の相関がより強い場合に使用します。

デュアル

LチャネルとRチャネルの信号に相関がほとんどない場合に使用します。各チャネルに全く別の音を記録する場合などにご使用ください(設定できる項目はモデルにより異なります)。

モノラル

1チャネルだけのオーディオ信号を記録します。Lチャネルの入力端子に入力された信号だけが記録されます。

プロテクション、オリジナル、コピーライト－HW-MPEG選択時

□プロテクション(P)
□オリジナル(O)
□コピーライト(Y)

プロテクション

チェックマークを付けると、作成されるオーディオデータのヘッダー部にその情報が、記録されます。

オリジナル

このデータがコピーされたものでなく、オリジナルデータであることを示します。

コピーライト

このデータに、著作権があることを示します。

これらの設定は、データ内に上記の情報が記録されるだけで、エンコード動作に影響は与えません。創作されたオーディオ信号をエンコードする場合以外は、オリジナルにチェックマークを付けないでください。

品質－SW-MPEG選択時

音声の品質を選択することができます。

5-2 索引